経済学研究科

開設科目	制度の経済学研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	植村高久				

●授業の概要 現代の制度論の基本的な文献を渉猟し、経済学における制度の扱い方についての概括的理解を得る。

●授業の一般目標 制度論経済学の基本的な概念を理解する。 制度論的思考法と新古典派的思考法の違いを識別する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 制度や慣習、行動類型など制度論の基本概念を操作できる。 思考・判断の観点： 制度論的思考法による問題設定ができる。

●授業の計画（全体） 制度論に関する基本的文献を輪読する。

●成績評価方法 (総合) 輪読における理解度、議論への参加度で評価する。

●教科書・参考書 教科書： テキストは授業内で指定する (相談して決める)。

開設科目	高齢化社会の経済学的研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	植村高久				

●授業の概要 日本における高齢化の進展から生じる経済的問題を総合的多面的に考察する。

●授業の一般目標 少子高齢化が及ぼす経済的効果について、様々な影響の回路を理解して、包括的・総合的に判断できる。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 日本の少子高齢化の状況と見通し、その原因について概略説明できる。　思考・判断の観点： 少子高齢化の作用について、推論できる。

●授業の計画（全体） 資料を講読して、高齢化の作用を解読する。

●成績評価方法 (総合) 主に演習への参加度によって評価するが、最終レポートを補助的に利用する。

●教科書・参考書 教科書： 授業時にプリントを配布する。

開設科目	社会思想論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	中尾 訓生				

開設科目	社会思想論研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中尾 訓生				

開設科目	外国文献研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	塚田広人				

●授業の概要 Text: John Rawls's A Theory of Jusitce, 1971, Harvard University Press This book is about how to make basic principles for making a society. The principles he deals with are very much related to fundamental economic questions such as the balance or relationship between efficiency, equity and human fellowship. Those students who are interested in these key words and theme will find it very interesting a book. We will read his first chapter, as much as possible. As we read on, the teacher will explain important words and sentences. ／検索キーワード Efficiency, equity and human fellowship

●授業の一般目標 To understand his theory, particularly the basic part of it; what is a society, what we need to make a society and why so, how to make the necessary rules (or basic social and economic structure) for a society, what are the rules to come out from consideration, how to justify the rules, etc..

●授業の計画（全体） We will read and think about the following sections as much as possible. 1 The Role of Justice 2 The Subject of Justice 3 The Main idea of the Theory of Justice 4 The Original Position and Justification 5 Classic Utilitarianism 6 Some Related Contrasts 7 Intuitionism 8 The Priority Problem 9 Some Remarks about Moral Theory

●教科書・参考書 教科書： A Theory of Justice, John Rawls, Harvard Univ. Press, 1971 年； You don't need to buy it. I will give you copies of a part of the book.

●メッセージ An interesting book for those interested in it.

●連絡先・オフィスアワー E-mail: ht@yamaguchi-u.ac.jp Phone: 083-933-5558 (Mon-Fri) Office Hour: Wed. 1:30-3:00 (When impossible, you are always welcome to visit me whenever I am in the office.)

開設科目	現代日本の労使関係	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	濱島清史				

●授業の概要 現代日本の労使関係について、主に労組、経営者団体、政策の戦後の動向を辿っていき、各自の歴史認識を深めることをねらいとする。労使関係には上記以外に日本的労使関係の考察や労務管理なども考えられるが、本講義では政労使三者関係史を中心に概観していくことにする。 なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。ちなみに，昨年前期は、高橋伸夫 (2004)『虚妄の成果主義』日経 BP. を中心に、他に日本的雇用慣行の基本文献を数本やり、さらに各自の発表を自由課題で行なった。／検索キーワード 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使関係、日本的雇用慣行

●授業の一般目標 現代日本の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解すること。

●授業の計画（全体） ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト (1) か (2) のいずれかを輪読し、毎回参加者にレ ジュメを作成して報告してもらう。なお、下記の参考書 (5) はテキストとの立場上のバラン スをとるために挙げている。 それが終わったら、テキスト (3) の 1990 年以降の「第 1 概説」部分を毎回輪読していく。発表 者にはできれば白書全頁とさらに参考文献を併せて読んできて報告することを期待する。 その他の参加者も少なくとも十数年分の「第 1 概説」を通読して知識を養ってもらう。経済 白書や世銀の年報の数年分の輪読は、他の大学院のゼミでも取り入れられており、とても 有意義な方法と認識している。

●成績評価方法 (総合) レジュメ発表と学期末レポート。レポートが 50 %、発表等が 40 %、出席が 10 %。

●教科書・参考書 教科書： ・テキスト候補 (1) 神代和欣・連合総合生活開発研究所編 (1995)『戦後 50 年産業・雇用・労働史』 日本 労働研究機構. (2) 兵藤ツトム (1997)『労働の戦後史』東京大学出版会. (3)(厚生) 労働省『労働運動白書』大蔵省印刷局、各年版. ・参考書は適宜指摘するが、さしあたり (4) 法政大学大原社会問題研究所編 (1999)『日本の労働組合 100 年』旬報社. (5) 労働問題実践シリーズ編集委員会編 5『労働組合を創る』大月書店. 教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。／ 参考書： 適宜指示する。

●メッセージ 共に学ばん！

●連絡先・オフィスアワー tel：083 − 933 − 5521。E メール・アドレス：hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	労使関係の国際比較	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	濱島清史				

●授業の概要 比較研究をすることによって対象への認識は深まるものであり、何らかの比較のないところでは対象の位置づけ自体が定まらなくなってしまう。本講義では労使関係の国際比較を行なうことによって、各自の専門 (関心) 領域に幅をもたせてもらうことをねらいとする。 先進国―日本―途上国の三段階の労使関係論を体系的に構築していく魁とならんことを期待したい。 なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。昨年後期は、日本・中国・カナダの労使関係に関する基本文献を数本輪読してから、今野浩一郎 (1998)『勝ち抜く賃金改革』日本経済新聞社. を輪読し、さらに各自の発表を自由課題で行なった。／検索キーワード 政労使関係

●授業の一般目標 世界の主要国の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解し、他国と比較検討できること。

●授業の計画（全体） ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト (1)(2) から何部か選択して輪読していき、毎回参加者にレジュメを作成して報告してもらう。ゼミの後半は、各自が関心を持つ国に関して調べてきて発表してもらいたい。 ただし、昨年同様、基本文献と関連文献をいくつか輪読し、各自の自由課題で締め括るという方向になるかもしれない。

●成績評価方法 (総合) 成績評価方法 (総合) レジュメ発表と学期末レポート。レポートが５０％、発表等が４０％、出席が１０％。 成績評価方法 (観点別) 講義形式とゼミとでは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。 定期試験 (中間・期末試験) 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 小テスト・授業内レポート 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 １０点 宿題・授業外レポート 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 ５０点 授業態度・授業への参加度 毎回、出席を確認する。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。 １０点 受講生の発表 (プレゼン)・授業内での制作作品 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 ２０点 出席 毎回、出席を確認する。 １０点 合計 １００点

●教科書・参考書 教科書： ・テキスト候補 (1) 桑原靖夫、グレッグ・バンバー、ラッセル・ランズベリー編 (1994)『先進 諸国 の 労使関係―国際比較：21 世紀に向けての課題と展望―』日本労働研究機構. (2)「特集●開発主義と労使関係」日本労働研究雑誌 1999 年 8 月号、No.469. ・ 参考書は適宜指摘するが、さしあたり (3) 稲上毅・H. ウィッタカー他 (1994)『ネオ・コーポラティズムの国際比較― 新しい政治経済モデルの探索―』日本労働研究機構. (4) 日本労働協会編『海外調査シリーズ、○○国の労働事情』日本労働協会 (現日本労働研究機構). 教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。／ 参考書： 適宜指示する。

●メッセージ 共に学ばん！

●連絡先・オフィスアワー tel：083 − 933 − 5521。E メール・アドレス：hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地域社会福祉論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	鍋山祥子				

●授業の概要 福祉政策のあり方は国によって大きく異なる。 福祉国家比較をおこなうことによって、日本の福祉政策の現状と理念について理解を深める。 特に、スカンジナビアモデルと称される北欧諸国の福祉政策を考察することによって、 個人、家族、国家との関係がどのようなもので、また、賃金労働とケアとの関係がどのように考えられているのかなどについて、議論を進める。／検索キーワード 福祉国家、福祉政策、社会学、ケア、家族、ジェンダー

●授業の一般目標 比較福祉国家論の方法を修得する。 政策と政治、個人と社会との関係について多角的に考察できる。

●授業の計画（全体） 演習形式で授業をおこなう。 各自が話し合いによって文献の分担を決め、授業での報告をもとに全員での討論をおこなう。

●成績評価方法 (総合) 授業への参加度合いや討論の内容など、総合的に判断し評価する。 演習形式の授業のため、出席は履修の必要条件である。

●教科書・参考書 教科書: 読み合わせるテキストとして、”Social Politics”および”Journal of Social Policy”などの雑誌に掲載されている英語論文を考えている。

●メッセージ 授業内容を自分の興味関心と結びつけて考察するという姿勢を望みます。

●連絡先・オフィスアワー 来室の際はメールにて予定をお知らせ下さい。 e-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp URL http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ nabeyama/

開設科目	経済心理学研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	馬田哲次				

●授業の概要 人間を意識面からとらえなおし、それをもとに、豊かさ、富について考える。そして、豊かさを実現するうえにおいて、今日の経済システムが影響を与えているプラス面とマイナス面について考察し、さらに、経済社会システムをどのように再構築すれば豊かさを実現しやすいかについて考える。

●授業の一般目標 次のことを理解する。 1．人間の意識構造 2．経済活動と人間の意識との関係 3．社会経済システムと人間の意識との関係

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 経済心理学とは
第 2 回　項目 新古典派経済学批判
第 3 回　項目 経済学とは何か
第 4 回　項目 新しい人間観（１）
第 5 回　項目 新しい人間観（２）
第 6 回　項目 豊かさと富
第 7 回　項目 自然・経済・人間
第 8 回　項目 資本主義経済の特徴
第 9 回　項目 労働
第 10 回　項目 組織
第 11 回　項目 市場・貨幣
第 12 回　項目 消費
第 13 回　項目 環境問題
第 14 回　項目 新しい経済・社会システム
第 15 回　項目 まとめ

●成績評価方法 (総合) 出席と授業中の討論及びレポートを総合的に評価する。

●連絡先・オフィスアワー umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	計量経済学研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	野村淳一				

●授業の概要 経済理論を現実のデータで検証・利用するための基本となる分析ツールである重回帰モデルの理論とその応用方法について解説し、パソコンを用いて実際に推計、レポートを作成する。

●授業の一般目標 重回帰分析の基礎的な理論を行列演算形式で理解する。 経済理論を現実のデータを用いて検証する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 基本的な計量経済学の理論を理解している。 思考・判断の観点：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 計量経済学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 技能・表現の観点： 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

●授業の計画（全体） 1. 行列演算 2. 重回帰分析 3. 古典的仮定とその拡張

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 行列演算の基礎（1） 内容 行列演算の基礎（1）
第 2 回 項目 行列演算の基礎（2） 内容 行列演算の基礎（2）
第 3 回 項目 行列演算の基礎（3） 内容 行列演算の基礎（3）
第 4 回 項目 最小 2 乗法 内容 最小 2 乗法
第 5 回 項目 あてはまりの尺度（1） 内容 残差プロット、決定係数（自由度修正済み）
第 6 回 項目 あてはまりの尺度（2） 内容 関数型の選択、情報量基準
第 7 回 項目 古典的仮定と最小 2 乗推定量の性質（1） 内容 多重共線性
第 8 回 項目 古典的仮定と最小 2 乗推定量の性質（2） 内容 説明変数の過剰と欠如の影響
第 9 回 項目 古典的仮定と最小 2 乗推定量の性質（3） 内容 t 検定
第 10 回 項目 古典的仮定と最小 2 乗推定量の性質（4） 内容 ダミー変数、F 検定、構造変化
第 11 回 項目 古典的仮定の拡張（1） 内容 不均一分散
第 12 回 項目 古典的仮定の拡張（2） 内容 系列相関
第 13 回 項目 古典的仮定の拡張（3） 内容 分布ラグ・モデル
第 14 回 項目 予備
第 15 回 項目 予備

●成績評価方法 (総合) 課題レポートで判定する。評価割合は 100 %。

●教科書・参考書 教科書： Econometric Analysis 5th ed, William H. Greene, US Imports & PHIPEs, 2002 年

●メッセージ レポート作成に必要なワープロソフトの知識を持っていることを前提とする。 計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示・指導する。

●連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける (講義中に指示)

開設科目	計量経済学研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	野村淳一				

●授業の概要 計量経済分析の応用範囲は、今日広範囲に広がっており、先端的な分野における分析ツールを短期間に全てカバーすることは不可能である。したがって本講義では受講生の専攻分野でよく用いられる手法に集中し、その理論と応用方法について解説する。

●授業の一般目標 計量経済分析の先端的な分野の理論を習得し、現実のデータへ応用する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 基本的な計量経済学の理論を理解している。 思考・判断の観点： 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 計量経済学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 技能・表現の観点： 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

●授業の計画（全体） 次の分野から受講生の希望により選択する。 1. 質的変量モデル（アンケート調査分析を含む） 2. パネル・データの分析 3. 単位根・共和分分析 4. ARCH モデル 5. カルマン・フィルター 6. 多変量解析（主成分分析、因子分析、クラスター分析）

●成績評価方法 (総合) 課題レポートで判定する。評価割合は 100 %。

●教科書・参考書 教科書： Econometric Analysis 5th ed, William H. Greene, US Imports & PHIPEs, 2002 年； その他に選択分野により適宜テキストを指定する。

●メッセージ レポート作成に必要なワープロソフトの知識を持っていることを前提とする。 計量分析のためのアプリケーションは講義中に指示・指導する。

●連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける (講義中に指示)

開設科目	経済史研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	古賀大介				

●授業の概要 最近、アジアの工業化に対する「ウエスタン・インパクト」（イギリスをはじめとする 欧米諸国の「帝国主義」）の影響を積極的に評価する議論が盛んになってきています。 これまで通説とされきた歴史観を 180 度転換させる議論として、また究極的には、わが国 の「歴史教科書」問題にもつながる議論として、大変興味深い議論ですが、果たして手 放しに受け入れられるべき議論なのでしょうか？

本講義では、まず、こうした新たな議論について勉強します。ついで、こうした議論 とは対極にある議論を勉強します。最後に、二つの議論をつきあわせて、改めて植民地 投資・開発とは「だれが」「だれのために」行ったものであるのかを再確認し、同時 に、開発とは何か、発展とは何かについて考えてみたいと思います。／検索キーワード 工業化　開発　植民地　イギリス　インド　アジア　歴史観

●授業の一般目標 1. グローバルかつ歴史的視点からアジアの工業化について考える。 2. 植民地（「途上国」）投資・開発の「光」と「影」を学ぶ。 3. 歴史の両義性を知り、近代史に対する自分なりの歴史観を養う。

●授業の計画（全体） 講義はゼミスタイルで行います。人数によっては、毎回報告してもらうことになるかも しれません。内容的には、それほど専門性の高いものではありませんが、単位取得にい たるには一定程度の日本語能力が要求されます。

●教科書・参考書 参考書： １．秋田茂『イギリス帝国とアジア国際秩序』名古屋大学出版会、2003 年。 ２．杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルバ書房、1996 年。 ３．吉岡昭彦『インドとイギリス』岩波新書、1974 年。 ３．は、できるだけ事前に入手（購入）しておいてください。 １．２．は、余裕があれば入手（購入）してください。事前に入手しておく 必要はありません。

●メッセージ 受講希望者は、必ず事前に面談に来てください（堅苦しいものではないので お気軽にどうぞ）。

●連絡先・オフィスアワー 内線 5516（A-208) 研究室に電気がついているときはいつでもどうぞ。

開設科目	外国文献研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	古賀大介				

●授業の概要 イギリス経済史・金融史に関する研究サーベイ文献を輪読する。／検索キーワード Industrial Finance / British Economic History/

●授業の一般目標 1．イギリス金融史の主要課題である産業金融問題についての認識を深める 2．英語論文の読解力を養う

●授業の計画（全体） イギリス経済史・金融史に関する研究サーベイ文献を輪読する。

●成績評価方法 (総合) 毎回の報告内容を評価する

●教科書・参考書 教科書: Banks and Industrial finance in Britain 1800-1939, M. Collins, C.U.P., 1995 年

●メッセージ この授業を受講するには一定以上の英語能力が必要です。受講希望者は、予め面談を受けてください。

●連絡先・オフィスアワー A208 古賀研究室

開設科目	日本経済史研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	木部和昭				

●授業の概要 テーマ：産業革命期の日本経済　本講義では、明治 20(1887) 年頃から日露戦争後 (1910 年頃) にかけて展開したとされる 産業革命期の日本経済について取り上げる。日本の産業革命は、日本経済近代化の端緒 であると同時に、様々な面で日本という国を大きく変容させていった。では、日本の産 業革命は、欧米諸国のそれと比べてどの様な特徴を持ち、具体的にいかなる過程をたど って展開していったのか、あるいは産業革命を達成できた要因は何であったのか、とい った点について考察を加えていきたい。そうした上で、産業革命が地域社会に及ぼした 影響についても、具体的事例を取り上げながら詳細に検討してみたい。／検索キーワード 日本経済史、日本近代史、産業革命

●授業の一般目標 ・産業革命が日本の地域社会をどの様に変えたのかを理解する。 ・経済史の分野で地域社会を分析する視角を養う。

●授業の計画（全体） 当面は下記のテキスト、石井寛治『日本の産業革命』を中心に進めるが、受講生の興味関心に応じて、適宜、別の図書・論文の講読も行う。受講者には順次報告を課し、そ れについての討論および補足を行いながら進めていく。また、関係する基本的文献・資 史料を把握し、また、それらを用いた資史料講読も行う。

●成績評価方法 (総合) 課題の報告 (45 %) およびレポート (30 %) による。この他、授業への取組み (15 %)、出席 (10 %)。

●教科書・参考書 教科書： 『日本の産業革命』, 石井寛治, 朝日新聞社, 1997 年／ 参考書： この他の参考書は適宜紹介する。

●メッセージ ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合があ る。 ・この授業は前期に開講する。

●連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail；kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	公共経済研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤井大司郎				

●授業の概要 公共経済研究Bとともに、公共部門の経済理論に属する緒テーマを幅広く学ぶことを目的とする。この科目は、ミクロ経済学、マクロ経済学、及び厚生経済学に関する理解を前提としており、ある程度の経済数学的知識（微積分、線形数学の初歩程度）にもｐ通じていることが望ましい。また、必要に応じて関連する学術論文（英文）を参照することもあるので、英語読解力も求められる。

●授業の一般目標 財政学の理論的基礎を学ぶ。

●教科書・参考書 教科書： lectures on Public Economics, A.B.Atkinson and J.E.Stiglitz, Ｍｃ Ｇｒａｗ-Ｈｉｌｌ, 1980 年

開設科目	公共経済研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤井大司郎				

●授業の概要 公共経済研究Aとともに、公共部門の経済理論に属する緒テーマを幅広く学ぶことを目的とする。この科目は、ミクロ経済学、マクロ経済学、及び厚生経済学に関する理解を前提としており、ある程度の経済数学的知識（微積分、線形数学の初歩程度）にもｐ通じていることが望ましい。また、必要に応じて関連する学術論文（英文）を参照することもあるので、英語読解力も求められる。

●授業の一般目標 財政学理論の基礎を学ぶ。

●教科書・参考書 教科書： lectures on Public Economics, A.B.Atkinson and J.E.Stiglitz, Ｍｃ Ｇｒａｗ-Ｈｉｌｌ, 1980 年

開設科目	政府と政策	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	仲間瑞樹				

●授業の概要 この講義では主として日本のマクロ経済政策，ミクロ経済政策に携わっている日本の政策立案者（政策当局者）が執筆した英文論文を読む。そして政策立案者が日本経済や財政，そして財政金融，並びに財政金融政策をどのように評価しているかを考察する。　読む論文は英文の論文である。　注意してほしいことは，英文和訳の講義ではないこと。論文を読み，受講生に内容を発表してもらう。そして論文の中で扱っているテーマについて議論することがメインである。

●授業の一般目標 政府の政策理論を学ぶ。

●授業の計画（全体） 発表者に論文の内容を報告してもらい、その後他の受講者・教員からの質疑応答を受けつける。 適宜・教員からの補足説明も加える。最後に論文のテーマについて、報告者も含めてディスカッションをする。

●成績評価方法 (総合) 発表と議論の参加度合いから評価する。

●メッセージ 扱うテキストや論文は初回講義時にお知らせします。またミクロ経済学・マクロ経済学・経済数学の基礎知識を前提とします。

●連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp ご不明な点がありましたら、メールで問い合わせてください。

開設科目	金融システムとファイナンス研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	兵藤隆				

●授業の概要 この講義では、金融工学（ファイナンス）理論や情報の経済学など、よりアドバンスド（発展的）な金融理論を理論的・実証的に検証していくことを目的とする。／検索キーワード 金融工学　ファイナンス　投資決定理論

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 ガイダンス
第 2 回　項目 ファイナンス理論の流れと概要 1
第 3 回　項目 ファイナンス理論の流れと概要 2
第 4 回　項目 統計学の基礎 1
第 5 回　項目 統計学の基礎 2
第 6 回　項目 平均・分散アプローチ 1
第 7 回　項目 平均・分散アプローチ 2
第 8 回　項目 CAPM 理論 1
第 9 回　項目 CAPM 理論 2
第 10 回　項目 APT（価格裁定理論）
第 11 回　項目 行動ファイナンス理論
第 12 回　項目 デリバティブの概要
第 13 回　項目 オプション価格決定理論 1
第 14 回　項目 オプション価格決定理論 2
第 15 回　項目 予備

●メッセージ 統計学や基礎的な数学ツールは各自で補ってください。

開設科目	経済応用数学A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	柏木芳美				

●授業の概要 受講生の数学的予備知識に配慮しながら，ミクロ経済学の数学的理解に必要不可欠な多変数関数の微分や行列式や凹関数の最大値問題などについて概説する。応用として，国家公務員試験及び地方公務員試験上級の一部の問題の解説も行う。尚，他に希望があれば相談にのる。

●授業の一般目標 ミクロ経済学で使う数学を身につけること。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 偏導関数の計算ができる。 2. 行列式の計算ができる。 3. 無差別曲線，限界代替率などの概念を理解できている。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 1 変数関数の微分の計算　その 1
第 2 回　項目 1 変数関数の微分の計算　その 2
第 3 回　項目 1 変数関数の最大・最小問題
第 4 回　項目 偏微分　その 1
第 5 回　項目 偏微分　その 2
第 6 回　項目 高階偏微分
第 7 回　項目 全微分
第 8 回　項目 接平面
第 9 回　項目 合成関数の微分　その 1
第 10 回　項目 合成関数の微分　その 2
第 11 回　項目 行列式の計算　その 1
第 12 回　項目 行列式の計算　その 2
第 13 回　項目 行列式の計算　その 3
第 14 回　項目 陰関数定理と無差別曲線　その 1
第 15 回　項目 陰関数定理と無差別曲線　その 2

●成績評価方法 (総合) 毎回演習問題を出す。その結果を見て成績を付ける。

●教科書・参考書 教科書： 授業開始時点に指示する。

●メッセージ 毎回演習問題を出すので必ず次回までに解いてくること。

●連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp，電話:933-5595，研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	経済応用数学B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	柏木芳美				

●授業の概要 経済応用数学 A に引き続き，ミクロ経済学の理解に必要な数学の概説を行う。応用として，国家公務員試験及び地方公務員試験上級の一部の問題の解説も行う。

●授業の一般目標 ミクロ経済学で使う数学を身につけること。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 条件付き極値問題の意味を理解し，具体的な問題が解ける。 2. 効用最大化問題・支出最小化問題の意味を理解し，具体的な問題が解ける。 3. スルツキー方程式が扱える。 4. 所得項・代替項の意味を理解し，その基本的な性質が扱える。 思考・判断の観点： 1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 関心・意欲の観点： 1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 条件付極値問題　その 1
第 2 回　項目 条件付極値問題　その 2
第 3 回　項目 凸集合
第 4 回　項目 凸関数，凹関数　その 1
第 5 回　項目 凸関数，凹関数　その 2
第 6 回　項目 準凹関数
第 7 回　項目 効用最大化問題　その 1
第 8 回　項目 効用最大化問題　その 2
第 9 回　項目 支出最小化問題　その 1
第 10 回　項目 支出最小化問題　その 2
第 11 回　項目 双対性
第 12 回　項目 スルツキー方程式　その 1
第 13 回　項目 スルツキー方程式　その 2
第 14 回　項目 代替項の性質
第 15 回　項目 ギッフェン財，代替財，補完財

●成績評価方法 (総合) 毎回演習問題を出す。その結果を見て成績を付ける。

●教科書・参考書 教科書： 授業開始時点に指示する。

●メッセージ 毎回演習問題を出すので必ず次回までに解いてくること。

●連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp，電話:933-5595，研究室:C213。 オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	国際経済学研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田淵太一				

●授業の概要 L・ゴメスの著書を輪読しつつ貿易理論の形成史と現実の世界経済の諸力との関連を理解する。

●授業の一般目標 抽象的に理解されがちな貿易理論を，歴史，政治，通貨等の多面的な視角から捉え直す。

●授業の計画（全体） テキストを輪読しつつ関連文献を紹介してゆきます。

●成績評価方法 (総合) 報告・討論等，日常的な活動により評価します。 授業への参加度 50 %，受講者の発表 50 %。

●教科書・参考書 教科書： The Economics and Ideology of Free Trade: A Historical Review, Leonard Gomes, Edward Elgar, 2003 年

●メッセージ 大学院レベルの経済理論の知識を要求します。

●連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは前期開始後に発表します。

開設科目	国際経済学研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田淵太一				

●授業の概要 国際経済学研究Aに引き続いて，L・ゴメスのテキストを輪読しつつ，自由貿易推進論を批判的に検討する。

●授業の一般目標 自由貿易推進論の意味を現実の世界経済と対比して考察する。

●授業の計画（全体） テキストを輪読する。

●成績評価方法 (総合) 授業への参加姿勢，報告等の日常的活動を評価する。 授業への参加度 50 %，受講者の発表 50 %。

●教科書・参考書 教科書： The Economics and Ideology of Free Trade: A Historical Review, Leonard Gomes, Edward Elgar, 2002 年

●メッセージ 大学院レベルの経済理論の知識を要求します。 国際経済学研究Aを履修した上で受講すること。

●連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは後期開始後に発表します。

開設科目	国際メディア研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	マルク・レール				

●授業の概要 国際比較に基づいて新聞の歴史的発展、新聞市場の現状や将来性について理論的に分析。

●授業の一般目標 媒体論的アプローチによって新聞の特質を分析する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 新聞の歴史的発展とメディア的構造を理解する。 思考・判断の観点： 新聞の媒体としての役割について判断ができる。 関心・意欲の観点： 新聞に包括的に関心を持つ。 態度の観点： 自分の研究分野に新聞を活かす。 技能・表現の観点： 専門的なレベルで新聞に関して議論ができる。

●授業の計画（全体） 1. 欧米と日本の新聞の歴史的発展。 2. 欧米と日本の新聞市場の現状。 3. 新聞紙面とジャーナリズム。 4. ニュースとニュースデザイン。 5. 新聞の将来。

●成績評価方法 (総合) 授業の参加度 (40 %）+レポート（60 %)

●メッセージ 毎回の授業の具体的な内容は、受講者の関心と専門知識レベルを参考にして調整する。

●連絡先・オフィスアワー loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際メディア研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	マルク・レール				

●授業の概要 国際比較に基づいて放送メディアの歴史的発展、放送メディア市場の現状や将来性について理論的に分析することによって、放送メディアの特質を明らかにする。

開設科目	多国籍企業と世界経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	河野眞治				

●授業の概要 多国籍企業が世界経済にどのような変化をもたらしているか検討する。具体的には次の諸点を問題とする。(1) 企業内国際分業が貿易に与える影響、(2) 直接投資が途上国の経済発展に与える効 果、(3) 多国籍化と空洞化、(4) 先進国間投資とグローバル化、地域主義、(5) 多国籍企業間の競争、 M & A、戦略的提携。／検索キーワード 直接投資

●授業の一般目標 直接投資に関する最新の情報を学ぶこと。

●授業の計画（全体） World Investment Report 2005、を読む。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 レポートと討論 （以下同じ）
第 2 回
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●成績評価方法 (総合) 授業中のレポートと、討論内容で評価する。

●教科書・参考書 教科書： World Investment Report 2003, UNCTAD

開設科目	国際産業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	河野眞治				

●授業の概要 いくつかの産業を取り上げて、現代における巨大企業間の国際競争の特徴を探り出す。検討す るのは、自動車、半導体、電気通信、航空、コンピュータ、鉄鋼、石油などである。問題となる のは、直接投資、M & A、提携、国際的な工場配置、情報化等の諸点である。／検索キーワード 国際産業組織

●授業の一般目標 国際間の寡占企業間の競争の実態について学ぶ。

●授業の計画（全体） 学生が自分で産業を選び、国際競争の実態について報告する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 レポートと討論 （以下同じ）
第 2 回
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●成績評価方法 (総合) レポートと討論内容で評価する。

開設科目	中国経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	陳建平				

●授業の概要 改革開放２０年、中国が大きな変貌を遂げた。その中国経済の現在の到達点を文献等の精読を通じて把握し、２１世紀の中国経済の展望について考える。

●授業の一般目標 今日の中国経済の成長と社会主義計画経済時代の経済発展との関連性について正しく理解する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 中国経済の現状や課題について深く理解していること。

●授業の計画（全体） 文献資料等を講読する。

●成績評価方法 (総合) 報告とレポートによって評価する。

●教科書・参考書 教科書： テキストは受講者と相談の上決める。

●メッセージ 文献資料の多くが中国語であるため、中国語の理解力が求められる。

開設科目	中国産業政策研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	陳建平				

●授業の概要 改革開放を通じて中国の産業構造は大きく変貌した。本講義では、中国の産業政策について取り上げ、文献等の精読を通じて認識を深める。

●授業の一般目標 中国の産業政策の現状と課題についての理解を深める。

●授業の計画（全体） 文献資料等の講読、それについての討論等を通じて中国の産業政策についての知識と識見を深める。

●成績評価方法 (総合) 小テスト／授業内レポート = 50 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 50 % 出席 = 欠格条件

●教科書・参考書 教科書： 中国語資料を使うことがあるので、中国語の読解能力を有することが前提。

●メッセージ 無断欠席しないこと。

開設科目	韓国経済論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	横田伸子				

●授業の概要 1997 年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をど のように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れ る。／検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー

●授業の一般目標 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1．テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。 思考・判断の観点： 1．テキストである社会科学専門書の内容を批判的に読解できる。 技能・表現の観点： 1．客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。

●授業の計画（全体） 韓国の構造改革に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。その報告 を中心に討論する。

●成績評価方法 (総合) 1．報告 40 %, レポート 40 %, 討論 20 %。前期に 4 回以上欠席した場合単位は与えない。

●教科書・参考書 教科書： テキストは適宜指示する。

●連絡先・オフィスアワー オフィスアワーはとくに設けません。E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話:083-933-5559

開設科目	韓国経済論研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	横田伸子				

●授業の概要 1997 年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をど のように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れ る。／検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー

●授業の一般目標 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1．テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。 思考・判断の観点： 1．テキストである社会科学専門書の内容を批判的に理解できる。 技能・表現の観点： 1．客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。

●授業の計画（全体） 韓国の構造改革に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。報告を中 心に討論を行う。

●成績評価方法 (総合) 1．報告 40 %、レポート 40 %、討論 20 %。後期に 4 回以上欠席した場合、単位は与えない。

●教科書・参考書 教科書： テキストは適宜指示する。

●連絡先・オフィスアワー オフィスアワーはとくに設けない。E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:083-933-5559

開設科目	東アジア経済研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	尹春志				

●授業の概要 東アジアが今日直面している問題について、参加者との討論を交えて行う。

開設科目	外国文献研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尹春志				

開設科目	東アジア社会経済研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	李海峰				

●授業の概要 東アジアにおける開発と経済発展、地域格差、階層間格差を中心に理論と実証方法で 検討する。／検索キーワード 東アジアにおける開発、経済発展と格差の拡大、理論と実証、

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 中国の市場経済 発展と東アジア の構造変化
第 2 回　項目 地域開発の課題
第 3 回　項目 経済成長と地域 格差
第 4 回　項目 政府の所得分配 政策と格差の拡 大
第 5 回　項目 都市と農村の生 活水準の変化
第 6 回　項目 地域間、階層間 格差の拡大
第 7 回　項目 人間開発と貧困
第 8 回　項目 人間開発とジェ ンダー
第 9 回　項目 農村開発と農業 生産性の向上
第 10 回　項目 社会開発と貧困 の解消
第 11 回　項目 地域経済圏形成 の課題
第 12 回　項目 社会主義市場経 済について
第 13 回　項目 研究方法の探索
第 14 回　項目 理論と実証方法
第 15 回　項目 社会調査と分析 方法

●メッセージ 充実しておもしろい学問の道を探求しましょう、

開設科目	台湾経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	陳禮俊				

●授業の概要 戦後台湾は目覚しい経済発展を成し遂げている。特に 1980 年代の初頭から，台湾，韓国，香港，シンガポールなどの 4 カ国・地域はアジア NIE s の姿で，世界経済の舞台に登場して以来，それぞれの経済発展と政治の動きは世界の人々の注目を集めた。そしてアジア NIE s の内，台湾の工業化，都市化による経済成長のパターンは「発展途上国の模範」といわれているが，発展途上諸国の工業化における経済政策に大きな示唆を示している。しかし，18 世紀産業革命以降，欧米先進工業諸国は急激な技術革新及び工業化の成果を享受しながら，自然環境変化による莫大な被害を経験してきた。この背景に 1960 年代後半から，環境保全運動は盛んに行なわれているが，この時期はちょうどアジア NIE s 工業化の離陸期であり，欧米先進諸国から工業化による経済豊かさの情報のみを取り入れ，環境問題をほぼ無視した状態で工業化，都市化を進んできた。その影響はそれぞれの国・地域によって，多少時間のずれはあるが，1980 年代を中心にアジア諸国の環境問題は浮上しているが，台湾も例外ではない。

●授業の一般目標 本授業では戦前，戦後台湾経済発展の軌跡を辿りながら，台湾の工業化及び都市化が特徴を纏め，それに伴う環境・エネルギー問題を中心に分析し，従来の新古典派などの成長理論と異なる視点を用いて，新たな開発経済学の研究領域を模索する。そして授業のねらいは「環境に優しい経済発展」のモデルを考察することにしたい。

●授業の計画（全体） （1）戦前，戦後台湾の経済発展過程の考察 （2）戦前，戦後台湾の工業化，都市化の考察 （3）工業化，都市化の現状及びそれに伴う環境・エネルギー問題の考察 （4）諸学派の「成長理論」及び「台湾モデル」の考察

●成績評価方法 (総合) 成績評価は基本的に，出席（40 %），報告（60 %）で行う。ただし，合格基準点に達していない受講者に対して，救済措置として課題レポートを要求する場合がある。

●教科書・参考書 教科書： テキストは特に指定せず，授業中に随時プリントを配布する。／ 参考書： 1 隅谷三谷男・劉進慶等『台湾の経済ー典型 NIES の光と影ー』東京大学出版　会，1992 年 2 月 2　劉進慶『NIES の構造と問題点（２）ー戦後台湾経済の発展過程ー』，本　　多健吉編著 3　渡辺利夫著『開発経済学ー経済学と現代アジア』日本評論社、1986 年 5 月 4　石田浩著『台湾経済の構造と展開ー台湾「開発独裁」のモデルかー』大　　月書店，1999 年 3 月 5　朝元照雄『現代台湾経済分析ー開発経済学からのアプローチ』，勁草書　　房，1996 年 3 月 6　施昭雄・朝元照雄著『台湾経済論ー経済発展と構造転換ー』勁草書房，　　1999 年 4 月 7　その他，授業の内容合わせて案内する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部 C226 室 電　話:083-933-5578 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	華僑経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	陳禮俊				

●授業の概要 アジアを中心に居を構えている華人は，その居住国での総人口に占める割合は少ないにもかかわらず，経済面では圧倒的な支配力を持っている。華人企業の多くは様々な分野に跨るコングロマリットにまで成長している。特に近年，華人企業は対外投資や企業買収を活性化させるなどの方法で，その授業をグローバルに展開し，アジア経済，そして国際経済の発展にますます大きな役割を果たすようになっている。このことは華人が既に無視できない経済勢力にまで成長し，華人経済抜きではアジア，そして国際経済を語れなくなったことを示唆しているが，経済の頂点にたつ華人社会は現在新たな事業を展開しながら，国際社会への更なる貢献を模索しているところである。

●授業の一般目標 本授業はアジアにおける華僑の経済活動を中心に分析しながら，アジアにおける開発途上国の環境問題を視野に取入れ，従来欧米先進諸国が主導してきた「東洋経済」,「環境保全」の限界と問題点を指摘し，東洋的，特に中国社会における「老荘思想」，そして日本の「和道」から出発し，東洋社会に適した経済発展のアプローチと環境意識を考案することにしたい。その目的は,「老荘思想」をもつ「華人ネットワーク」と「和道」を論ずる日本社会をリンクさせ，東洋独自なアプローチで，新たなアジア経済秩序作りと地球規模の環境問題解決に向ける提案を考案し，理論を構築することにしたい。

●授業の計画（全体） （1）華僑経済発展過程の考察 （2）アジアにおける華僑経済活動の現状 （3）アジアにおける工業化，都市化の現状及びそれに伴う環境・エネルギー問題の考察 （4）華僑経済の位置付け及びその展望 （5）地球規模の環境問題解決における華人の役割，可能性及びその展望

●成績評価方法 (総合) 成績評価は基本的に，出席（40 %），報告（60 %）で行う。ただし，合格基準点に達していない受講者に対して，救済措置として課題レポートを要求する場合がある。

●連絡先・オフィスアワー 研究室:経済学部C226室 電　話:083-933-5578 E-mail:lichun@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際通商政策研究Ａ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤原貞雄				

●授業の概要 今年度は、ＷＴＯの諸協定を中心に講義する。 前後期続（Ａ、Ｂ）受講することが望ましい。

●授業の一般目標 国際通商制度の枠組みついて基本的知識を得るだけでなく、その問題点、当面する課題について理解する。

●授業の計画（全体） 用意したテキストに沿って講義する。

●成績評価方法 (総合) レポート及び試験の成績を総合評価する。

●教科書・参考書 教科書： 講義資料を配付する

開設科目	国際通商政策研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤原貞雄				

●授業の概要 国際通商政策Ａとセットになっているので、そちらのシラバスを参考のこと。Ｂだけの受講は認めない。

開設科目	外国文献研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	単位	開設期	後期
担当教員	豊 嘉哲				

●授業の概要 ヨーロッパ統合について論じられた英語文献を輪読する。 ヨーロッパ統合を論じる上でキーワードの 1 つとなっている cohesion（結束）について学ぶ。／検索キーワード ヨーロッパ統合，cohesion，経済格差，構造政策

●授業の一般目標 cohesion という観点から，近年のヨーロッパ統合に関して，自分の意見を述べることができるようになること。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ヨーロッパ統合において，cohesion という考え方がどのような役割を果たしてきたかを理解する。　思考・判断の観点： cohesion という観点から，近年のヨーロッパ統合に関して，自分の意見を述べることができるようになること。

●授業の計画（全体） テキストの輪読。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 オリエンテーション 内容 第 2 回講義からの輪読に必要な知識の概説。
第 2 回　項目 輪読 内容 第 2 週以降，テキストを輪読していく。
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●成績評価方法 (総合) 授業中の発表内容に基づいて評価する。 たびたび欠席する学生は不可。

●教科書・参考書 教科書： 輪読する論文を第 1 回講義で配布する

●メッセージ 積極的に自分の意見を述べる学生を歓迎します。

●連絡先・オフィスアワー yyutaka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	海運論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	澤　喜司郎				

●授業の概要 数学的手法をもちいた海運経済学の諸理論について学習します。この講義では経済学だけでなく、数学や統計学の基礎知識も必要とされます。

●授業の一般目標 海運諸理論の理解を目指します。

●授業の計画（全体） 講義は、下記のテキストの前半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容（テキスト）の内容は、以下の通りです。 ・Relevant aspects of analytical geometry ・Probability theory and distributions ・Basic economic relationships ・The demand and supply of sea transport ・Optimum speed of ships ・Ship's cost ・Freight futures ・The optimum size of ships ・Liner freight rates

●成績評価方法 (総合) 成績評価は、学期末のレポート（20,000 字以上）によって行います。

●教科書・参考書 教科書： Quantitative Methods in, J.J.Evans and P.B. Marlow, , 1990 年； 受講者は各自で購入しておくこと。

●メッセージ 毎時間、テキストを 20 ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義 務づけます。

開設科目	海運論研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	澤　喜司郎				

●授業の概要 海運論研究 A に続けて、数学的手法をもちいた海運経済学の諸理論について学習します。この講義は海運論研究 A の単位を修得していることが受講の条件になります。

●授業の一般目標 海運諸理論の習得を目指します。

●授業の計画（全体） 講義は、下記のテキストの後半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容（テキスト）の内容は、以下の通りです。 ・Linear programming and transportation ・Regression and correlation ・Decision theory ・The theory and practice of index numbers ・Currency, bunker and inflation differential factors ・Investment appraisal in shipping ・Replacement, obsolescence and modifications of ships ・Shipping and the balance of payments ・Calculations in shipping economics

●成績評価方法 (総合) 成績評価は、学期末のレポート（20,000 字以上）によって行います。

●メッセージ 毎時間、テキストを 20 ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義 務づけます。

開設科目	交通論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	澤　喜司郎				

●授業の概要 交通現象や人々の交通行動を研究するための基礎としての交通計量経済学について学習します。この講義では経済学だけでなく、交通工学の基礎知識も必要とされます。

●授業の一般目標 交通計量経済学の諸手法の習得を目指します。

●授業の計画（全体） 講義は、下記のテキストの前半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容（テキスト）の内容は、以下の通りです。　Part A : The Traffic analysis process Part B : Basic Traffic Theory / Basic traffic flow theory

●成績評価方法 (総合) 成績評価は、学期末のレポート（20,000 字以上）によって行います。

●教科書・参考書 教科書： テキストは、M.A.P.Taylor, W.Young and P.Bonsall, Understansing Traffic Systems,1996 を使用します。受講者は各自で購入しておくこと。／ 参考書： 参考書は、澤　喜司郎『交通計量経済学』成山堂書店、平成 9 年を使用し ます。受講者は各自で購入し、開講までにすべてを読んでおくこと。

●メッセージ 毎時間、テキストを 20 ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義 務づけます。

開設科目	交通論研究B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	澤　喜司郎				

●授業の概要 交通論研究Aに続き、交通現象や人々の交通行動を研究するための基礎としての交通計量経済学について学習します。この講義では経済学だけでなく、交通工学の基礎知識も必要とされます。
なお、本講義の履修には、交通論研究Aを履修してあることが前提条件となります。

●授業の一般目標 交通計量経済学の諸手法の習得を目指します。

●授業の計画（全体） 講義は、下記のテキストの後半部分に沿って講読と報告の形式で進めます。主な講義内容（テキスト）の内容は、以下の通りです。 Part C : Principles of survey planning and management / Road safety and accident analysis Part D : Statistical analysis / Statistical modelling

●成績評価方法 (総合) 成績評価は、学期末のレポート（20,000 字以上）によって行います。

●教科書・参考書 教科書： テキストは、M.A.P.Taylor, W.Young and P.Bonsall, Understansing Traffic Systems,1996 を使用します。／ 参考書： 参考書は、澤　喜司郎『交通計量経済学』成山堂書店、平成９年を使用し ます。

●メッセージ 毎時間、テキストを 20 ページ程度読み、受講生には毎回全訳文の提出を義 務づけます。

開設科目	中国近現代文化の研究Ａ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	齊藤匡史				

●授業の概要 本科目は中国近代を社会、文化の側面から考察し、中国「近代」を捉えようとするものである。具体的には租界都市「上海」の成立と発展をつぶさにたどり、その社会、文化を検証しつつ、今日的な視点からその位置づけを再考する。／検索キーワード 中国「近代」の特質　租界都市―上海

●授業の一般目標 中国「近代」社会文化の特性を理解し、今日の中国理解の一助とする。

●教科書・参考書 教科書： プリント配布／ 参考書： 適宜、講義の中で紹介する

●メッセージ 中国語文献を精読するので、一定の中国語能力が必要である。中国語を母語とする学生は受講できない

開設科目	中国近現代文化の研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	齊藤匡史				

●授業の概要 本科目は中国現代を社会、文化の側面から考察し、中国「現代」を検証の中から再構築しようとするものである。具体的には上海の革命後の歩んだ道のりをたどり、その社会、文化の検証の中から、中国「現代」の本質を探る。／検索キーワード 改革開放と上海

●授業の一般目標 中国現代社会文化の特性を理解し、今日の中国理解の一助とする。

●教科書・参考書 教科書： プリントを使用する／ 参考書： 適宜、講義の中で紹介する

●メッセージ 中国語文献を精読するので、一定の中国語能力が必要である。中国語を母語とする学生は受講できない

●連絡先・オフィスアワー saito@yamaguchu-u.ac.jp

開設科目	可能世界論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	正宗聡				

●授業の概要 Bergson のテキストを読み進めるなかで、「時間」について考える。そのなかでこの授業のタイトル、「可能世界」が問題として浮上してくることと思われる。／検索キーワード 真剣に授業に臨むこと。

●授業の一般目標 抽象的な内容を自ら深く考えてみる作業を行うことを目標にする。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 著者の言いたいことをできるだけ正確に理解する。

●授業の計画（全体） 毎回、演習形式で行う。担当があたった人はレジメを作り、授業内で発表してもらう。 その後、参加者間で議論する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 演習 1（以下、演習形式を続ける）
第 2 回
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

●成績評価方法 (総合) 授業態度＋レポート

●教科書・参考書 教科書： 毎回コピー配布する。

●メッセージ なし

●連絡先・オフィスアワー 未定

開設科目	政治理論研究Ａ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	渡邉幹雄				

●授業の概要 現代リベラリズムの再検討。リベラリズムはさしあたり種々のイデオロギー闘争を勝ち 抜いた１つの政治的イデオロギーであり、コミュニズム亡き後、その指導的イデオロ ギーとしての地位を確固たるものにした感がある。しかし、欧米、そして日本において も、勝利したイデオロギーとしてのリベラリズムに対する異議申し立てが次々となされ ており、リベラリズムの現状的地位が安泰なわけではない。／検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

●授業の一般目標 例年、政治学の主要テーマに手広く言及する講義を続けてきたが、本年度は、リベラリズムの問題に特化して、それを中心に政治学全体を見渡すことを考えている。問題の焦 点を明らかにして、さまざまな政治理論についての総合的な理解を目指す。

●授業の計画（全体） リベラリズムの歴史・成立を振り返り、そこに内在する問題点を明らかにした上で、さ まざまな理論のリベラリズム批判を検討してゆく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1回　項目 リベラリズム前 史（１）
第 2回　項目 同上（２）
第 3回　項目 同上（３）
第 4回　項目 リベラリズムと その哲学的基礎 （１） 内容 Ｊ・Ｓ・ミルと Ｊ・ロールズを
第 5回　項目 同上（２）
第 6回　項目 同上（３）
第 7回　項目 リベラリズムの さまざまな形態 （１） 内容 リバタリアニズ ム
第 8回　項目 同上（２） 内容 社民主義
第 9回　項目 同上（３） 内容 卓越主義
第 10 回　項目 政治的リベラリ ズムとポストモ ダン・リベラリ ズム（１） 内容 Ｊ・ロールズと Ｒ・ローティを 中心に
第 11 回　項目 同上（２）
第 12 回　項目 同上（３）
第 13 回　項目 リベラリズムに 対するさまざま な批判（１） 内容 共同体論・保守 主義
第 14 回　項目 同上（２） 内容 共和主義
第 15 回　項目 同上（３） 内容 フェミニズム・ 多文化主義

●成績評価方法 (総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度などを総合的に判断して評 価する。

●教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。／ 参考書： 講義中に適宜指示する。

●メッセージ 日本語を十分に操り、英語を十分に読みこなせる能力は最低限必要である。 英語を苦手とする学生はご遠慮いただきたい。また、日本語についても、哲 学的議論に参加できる語彙力が求められるので、市販されている哲学書など には目を通しておいていただきたい。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部３階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	政治理論研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	渡邉幹雄				

●授業の概要 現代リベラリズムの再検討。リベラリズムはさしあたり種々のイデオロギー闘争を勝ち 抜いた１つの政治的イデオロギーであり、コミュニズム亡き後、その指導的イデオロ ギーとしての地位を確固たるものにした感がある。しかし、欧米、そして日本において も、勝利したイデオロギーとしてのリベラリズムに対する異議申し立てが次々となされ ており、リベラリズムの現状的地位が安泰なわけではない。／検索キーワード 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

●授業の一般目標 例年、政治学の主要テーマに手広く言及する講義を続けてきたが、本年度は、リベラリズムの問題に特化して、それを中心に政治学全体を見渡すことを考えている。問題の焦 点を明らかにして、さまざまな政治理論についての総合的な理解を目指す。

●授業の計画（全体） リベラリズムの歴史・成立を振り返り、そこに内在する問題点を明らかにした上で、さ まざまな理論のリベラリズム批判を検討してゆく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1回　項目 リベラリズム前 史（１）
第 2回　項目 同上（２）
第 3回　項目 同上（３）
第 4回　項目 リベラリズムと その哲学的基礎 （１） 内容 Ｊ・Ｓ・ミルと Ｊ・ロールズを
第 5回　項目 同上（２）
第 6回　項目 同上（３）
第 7回　項目 リベラリズムの さまざまな形態 （１） 内容 リバタリアニズ ム
第 8回　項目 同上（２） 内容 社民主義
第 9回　項目 同上（３） 内容 卓越主義
第 10 回　項目 政治的リベラリ ズムとポストモ ダン・リベラリ ズム（１） 内容 Ｊ・ロールズと Ｒ・ローティを 中心に
第 11 回　項目 同上（２）
第 12 回　項目 同上（３）
第 13 回　項目 リベラリズムに 対するさまざま な批判（１） 内容 共同体論・保守 主義
第 14 回　項目 同上（２） 内容 共和主義
第 15 回　項目 同上（３） 内容 フェミニズム・ 多文化主義

●成績評価方法 (総合) 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度などを総合的に判断して評 価する。

●教科書・参考書 教科書： とくに指定しない。／ 参考書： 講義中に適宜指示する。

●メッセージ 日本語を十分に操り、英語を十分に読みこなせる能力は最低限必要である。 英語を苦手とする学生はご遠慮いただきたい。また、日本語についても、哲 学的議論に参加できる語彙力が求められるので、市販されている哲学書など には目を通しておいていただきたい。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部３階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	憲法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	立山 紘毅				

開設科目	憲法研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	立山 紘毅				

開設科目	憲法研究Ｃ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	柳井健一				

●授業の概要 憲法学

●授業の一般目標 憲法学の基礎的な理論や概念について修得する

●授業の計画（全体） 参加者の希望を聞いた上で決定する

●教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する。

開設科目	憲法研究D	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	柳井健一				

●授業の概要 憲法学

●授業の一般目標 憲法学の基礎的な理論や概念について修得する

●授業の計画（全体） 参加者の希望を聞いたうえで決定する

●教科書・参考書 教科書： 開講時に指示する

開設科目	行政法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	上杉信敬				

●授業の概要 行政救済法の法理について深める. 行政不服審査や行政訴訟について行うか、国家補償について行うか、実体法理や組織法について行うかについては、個別に協議して決める.

●成績評価方法 (総合) 報告、レポート提出など総合的に評価して決める。

●教科書・参考書 教科書： 開講時に協議して決める。

開設科目	行政法研究 B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	上杉信敬				

●授業の概要 行政法をめぐる諸問題。総論的な原理論もしくは組織法に分野に関するものなどが考えられる。いずれも受講生の意見も踏まえて具体化する。

●成績評価方法 (総合) 報告、レポート提出などを総合的に評価する。

●教科書・参考書 教科書： 開講時に協議して決める。

開設科目	税法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	青柳 達朗				

●授業の概要 企業が経済活動を行っていくさい、税は最終利益に最も影響するコストとして認識され ているほか、あらゆる経営判断に少なからぬ影響を及ぼしています。このため、税法を 理解している人に対するニーズは、大きいものがあります。ところが、日本のほとんど の大学では、税法の体系だった授業を行っていないため、税法を法律として学ぶ機会を 持たないまま、大学を卒業する方が少なくありません。そのような人を対象に、法人に かかる税について、国税通則法、法人税法、消費税法のほかに、国際租税法などを全般 的に勉強していきます。

●授業の一般目標 国税通則法と法人税法を中心に、企業にかかる税に関する法律の基本的な理解を目標としていきます。

●授業の計画（全体） 日本の租税法体系、法人税法、消費税法、国際租税法という順序で授業を進めます。限 られた時間ですが、企業取引に関係して必須とされる税法に重点を置いて、授業を進め る予定です。

●成績評価方法 (総合) 出席状況、受講態度、レポート等を総合的に評価します。

●教科書・参考書 教科書： 国税庁税務大学校作成の教科書（「国税通則法」、「法人税法」）をダウン ロードして、使用します。／ 参考書： 学生の法律に関する理解度を参考に、追って指示します。インターネット上 （財務省・国税庁）の資料を多用します。「小六法」など 、基本的な税法の 規定が省略されない形で収録されている法律集が必要です。

●メッセージ 税法はわが国の行政法体系の中でも、特に大きな法体系です。受講に当たっ て会計学の知識が必要とされますが、それ以上に行政法の知識が必要とされ ます。

●連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	税法研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	青柳 達朗				

●授業の概要 企業にかかる税のうち、特に法人税法と、それに関連した租税特別措置法などの法令の 理解を深めるため、判例研究など演習を主体とした授業を進めていきます。

●授業の一般目標 資産の評価、利益配当、企業再編成など、法人税法の中でも本質的テーマについて理解する。

●授業の計画（全体） テーマごとに裁判例や国税不服審判所の裁決例を利用して、授業を進めていく。

●成績評価方法 (総合) 出席状況、受講態度、レポート等を総合的に評価します。

●教科書・参考書 教科書： 平成１６年度版法人税法（平成１６年７月出版予定）, 渡辺淑夫, 中央経済社, 2004 年

●メッセージ 受講を希望される方は、「税法研究Ａ」の受講をしてください。

●連絡先・オフィスアワー aoyagi@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	民法研究Ａ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	平中貫一				

●授業の概要 契約の正義／検索キーワード 契約

●授業の一般目標 契約の正義を探求する。

●授業の計画（全体） 1　契約の歴史 2　契約の哲学 3　契約の正義

開設科目	民法研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	平中貫一				

●授業の概要 不法行為の正義／検索キーワード 不法行為

●授業の一般目標 不法行為の正義を探求する。

●授業の計画（全体） 1　不法行為の歴史 2　不法行為の哲学 3　不法行為の正義

開設科目	民法研究C	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	三間地光宏				

●授業の概要 不法行為に関する判例・裁判例を検討する。

●授業の一般目標 判例・裁判例を分析する能力を身につける。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 判例・裁判例を読んで理解できるようになること。 思考・判断の観点： 判例・裁判例を分析・検討する能力を身につけること。 関心・意欲の観点： 報告を担当する場合には関連する判例や文献を十分調べてくること。 態度の観点： 報告があたってない場合でも積極的に発言すること。

●授業の計画（全体） 毎回報告者にひとつの判例を選んで報告してもらう。

●教科書・参考書 教科書： なし／ 参考書： 適宜指示する。

●連絡先・オフィスアワー オフィスアワーは未定。

開設科目	民法研究Ｄ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	三間地光宏				

●授業の概要 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（1）
第 2 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（2）
第 3 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（3）
第 4 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（4）
第 5 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（5）
第 6 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（6）
第 7 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（7）
第 8 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（8）
第 9 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（9）
第 10 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（10）
第 11 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（11）
第 12 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（12）
第 13 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（13）
第 14 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（14）
第 15 回　項目 財産法に関する最近の判例・裁判例の検討（15）

開設科目	企業法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	一ノ澤直人				

●授業の概要 本年度は、企業法の中でも改正が進む会社法について研究する。会社法の諸制度を機能的に理解し、日々変化している企業のあり方や会社を取り巻く社会状況を踏まえ、適正な会社法制度のあり方を探究したい。／検索キーワード 会社法、企業法、コーポレートガバナンス

●授業の一般目標 本講では、企業法に関する問題を比較法的に研究することで、現代企業法の特質、およびその問題点をあきらかにし、企業法制の在り方を検討することを目的とする。

●授業の計画（全体） 本講義は、参加者の研究報告をもとに対話形式で議論していく。各人の研究テーマから報告者の関心等を踏まえ研究報告をしてもらう予定である。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 ガイダンス
第 2 回　項目 研究報告・検討
第 3 回　項目 研究報告・検討
第 4 回　項目 研究報告・検討
第 5 回　項目 研究報告・検討
第 6 回　項目 研究報告・検討
第 7 回　項目 研究報告・検討
第 8 回　項目 研究報告・検討
第 9 回　項目 研究報告・検討
第 10 回　項目 研究報告・検討
第 11 回　項目 研究報告・検討
第 12 回　項目 研究報告・検討
第 13 回　項目 研究報告・検討
第 14 回　項目 研究報告・検討
第 15 回　項目 研究報告・検討

●成績評価方法 (総合) 報告内容、議論内容及びレポート等によって評価する。

●教科書・参考書 教科書: The Reform of United Kingdom Company Law, John de Lacy (ed), Cavendish Publishing Limited ／ 参考書： その他、参考文献については、適宜連絡する。

●メッセージ 受講者は、会社法関連のテーマ・判例を中心に、自己の関心・問題意識から、とくに本講義で検討したい点を、幾つか考えておくこと。

開設科目	企業法研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	一ノ澤直人				

●授業の概要 本講では、企業法に関する近時の判例を中心に研究する。

●授業の一般目標 判例の研究を通じて、現代企業法の特質、およびその問題点をあきらかにし、企業法制の在り方を検討することを目的とする。

●授業の計画（全体） 本講義は、参加者の判例研究報告をもとに対話形式で議論していく。最新の判例から報告者の関心等を踏まえ研究報告をしてもらう予定である。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 ガイダンス
第 2 回　項目 判例報告・検討
第 3 回　項目 判例報告・検討
第 4 回　項目 判例報告・検討
第 5 回　項目 判例報告・検討
第 6 回　項目 判例報告・検討
第 7 回　項目 判例報告・検討
第 8 回　項目 判例報告・検討
第 9 回　項目 判例報告・検討
第 10 回　項目 判例報告・検討
第 11 回　項目 判例報告・検討
第 12 回　項目 判例報告・検討
第 13 回　項目 判例報告・検討
第 14 回　項目 判例報告・検討
第 15 回　項目 判例報告・検討

●成績評価方法 (総合) 報告内容、議論内容及びレポート等によって評価する。

●教科書・参考書 教科書： 株式会社・有限会社法, 江頭憲治郎, 有斐閣； その他、参考文献については、適宜連絡する。

●メッセージ 受講者は、企業法関連の判例を中心に、自己の関心・問題意識から近時の判例について幾つか検討しておくこと。

開設科目	企業法研究 C	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	中村美紀子				

開設科目	企業法研究 D	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中村美紀子				

開設科目	知的財産権法研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	単位	開設期	後期
担当教員	木村友久				

開設科目	雇用関係法研究Ａ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	柳澤旭				

●授業の概要　本講義は、労働法の領域の中でも、集団的労使関係の法以外の部分（個別的労働関係の法および雇用保障関係の法）を対象とするものである。近年なされてきたこの領域についての法改正の問題を中心に、検討をし、今日の雇用関係法の問題状況を受講生に理解してもらう。／検索キーワード　雇用、法。

●メッセージ　毎回きちんと出席し、きちんとした報告と活発な議論を期待する。

開設科目	雇用関係法研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	柳澤旭				

●授業の概要　労働法と社会保障法の関係について具体的問題領域を対象に問題点を検討する。

●メッセージ　各自の研究目的に沿って対象領域を検討する予定です。

開設科目	現代行政法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	石 龍潭				

●授業の概要 わが国の行政をめぐる状況は、一方では新自由主義の下で“小さな政府”論と、他方における“地方分権”という、二つの潮流のただ中にある。この講義では、こうした状況を踏まえながら、具体的な問題を素材にして行政法を考えていく。

●メッセージ 絶えず、行政をめぐる情報に注意を向けて欲しい。

開設科目	応用行政法研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	石 龍潭				

●授業の概要 「現代行政法」での問題意識をさらに発展させ、より具体的な問題点を検討する。

●メッセージ 日々のニュースに敏感であって欲しい。

開設科目	外国文献研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	宮崎充保				

●授業の概要 この授業は、2つの目的があります。社会科学的（主に経済）側面から外国語で書かれた文献を研究することとそこに使われている言語（英語）を的確に把握することです。その文献を通してさらに自分の興味の分野の視野を広げることです。　そのためには、自分の視点からしっかり文献が読めなければなりません。訳読とは違います。翻訳は翻訳の専門家に任せておけばよいのです。自分の視点との同一と相違を読み取り、それを自己表現として表現するだけのことを扱います。　専門書を読むには、専門知識が半分、言語知識が半分必要です。そして、それを正確に把握し理解しなければなりません。それをさらにわかりやすく他人に伝えることも必要になります。　この授業ではそうしたことを以下の目標をもって実践して行きます。／検索キーワード sociology, economics, globalization, risk, trdition, family, democracy

●授業の一般目標 ・段落を追いながら、段落がどのような構造をもっているか把握する。Topic Sentence–Supporting Sentences–Conclusion の構造分解ができる。 ・それぞれの段落の中から、key words; key phrases; key sentences を求める。 ・Key として求めた情報を階層的に配列することで、アウトラインを作る。 ・アウトラインを一目見ると、その段落の情報構造が一目でわかる。 ・作ったアウトラインをもとに、一人 1 章ずつプレゼンテーションを行う。（英語でも日本語ででもよい。） ・プレゼンテーションをしながら、オーディアンスに問題を投げかけ、授業参加者と議論する。 ・英語で summary を書く。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 文構造の把握力。 語彙力――辞書をしっかり活用できる。　思考・判断の観点： key words; key phrases; key sentences の抽出ができる。 Key に基づいて、検索・収集した情報を階層的に配列できる。　関心・意欲の観点： 英語を読んで“ うんざりしない ”。 英語を通して何かを学ぼうと言う態度や意欲を持つ。 読んだ材料をもとに、問題意識を持てる。　態度の観点： なおざりな仕事をしない。 知識と知恵に対して貪欲な態度を持つ。　技能・表現の観点： いかに正確に効率よく読んだ内容をまとめられるかを工夫する。 それを、ハンドアウト（英語のアウトライン）とプレゼンテーションで他人に伝達する。

●授業の計画（全体） イントロダクションを 3 回予定して、1．和訳をせずに内容を理解するにはどういう読み方をしたらよいか　2．段落構成は一般的にどうなっているか　3．アウトラインはどう作成するか　を説明したら、1～3を実践して英語でハンドアウトを作成して、プレゼンテーションを行う。1 人につき、2 コマを宛てる。プレゼンテーションには関連した議論の材料をかならず用意する。プレゼンテーションが終わったところでサマリーを書く。　授業では、折々にフィードバックが必要となるので、ここで示す週単位の進度とは異なる可能性が大いにある。また、授業の効率性を考えて授業内容の順序を変えることがある。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 Introduction 1 内容 How to read English
第 2 回　項目 Introduction 2 内容 How is the paragraph composed?
第 3 回　項目 Introduction 3 内容 The writing of an outline in English
第 4 回　項目 Chapter 1 Globalization 1 内容 Presentation
第 5 回　項目 Chapter 1 Globalization 2 内容 Discussion Assessment
第 6 回　項目 Chapter 2 Risk 1 内容 Presentation
第 7 回　項目 Chapter 2 Risk 2 内容 Discussion Assessment
第 8 回　項目 Chapter 3 Tradition 1 内容 Presentation
第 9 回　項目 Chapter 3 Tradition 2 内容 Discussion Assesment
第 10 回　項目 Chapter 4 Family 1 内容 Presentation
第 11 回　項目 Chapter 4 Family 2 内容 Discussion Assessment
第 12 回　項目 Chapter 5 Democracy 1 内容 Presentation

第 13 回　項目 Chapter 5 Democracy 2 内容 Discussion Assessment
第 14 回　項目 Summary Writing 内容 How to write a summary based on your outline
第 15 回　項目 Overview 内容 Why RUNAWAY WORLD?

●成績評価方法 (総合) ・出席は欠格条件とする。（自分の順番のときに発表できないときは欠席とする。）欠席は 3 回を超えると不合格となる。 ・アウトラインを作成してハンドアウトを書く。 ・プレゼンテーションで他人への伝達がどれほどできるか。 ・アウトラインをもとにサマリーを書く。

●教科書・参考書 教 科 書： The Third Way, Anthony Giddens, Polity, 1999 年； http://news.bbc.co.uk/hi/english/static/events/reith_99/default.htm にアクセスすれば、テキストが得られる。／ 参考書： Anthony Giddens の他の著書

●メッセージ アウトラインをしっかり作ってください。そして、説得力のある自己主張/自己表現をしてください。

開設科目	Advanced Macroeconomics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	馬田哲次				

●授業の概要 The purpose of this course is to introduce you to microeconomics which deals with behavior of individual decision makers and market mechanism. We will cover topics such as consumption and pruduction choice, market outcomes under perfect competition, and

●授業の一般目標 To understand the main concepts of microeconomics.

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 Introduction
第 2 回　項目 The Market
第 3 回　項目 Consumer　Behavior（1）
第 4 回　項目 Consumer　Behavior（2）
第 5 回　項目 Individual and Market Demand（1）
第 6 回　項目 Individual and Market Demand（2）
第 7 回　項目 Production（1）
第 8 回　項目 Production（2）
第 9 回　項目 The Cost of Production（1）
第 10 回　項目 The Cost of Production（2）
第 11 回　項目 Profit　Maximization and Competitive　Supply（1）
第 12 回　項目 Profit　Maximization and Competitive　Supply（2）
第 13 回　項目 The Analysis of Competitive Markets
第 14 回　項目 General Equilibrium and Economic Efficiency（1）
第 15 回　項目 General Equilibrium and Economic Efficiency（2）

開設科目	Mathematics for Economics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	Yoshimi Kashiwagi (柏木 芳美)				

●授業の概要 This course is to introduce students mathematics used in microeconomics. By using mathematics, things in economics will become clear and we can handle them theoretically. Actually microeconomics has been developed by mathematics. The goal of this course is to understand the mathematics which is used in solving the constrained utility maximizing problem and the constrained expenditure minimizing problem. The starting point depends on your knowledge of mathematics. We will begin by checking it. Topics include: basic mathematics, differentiation of functions of one variable, differentiation of functions of several variables, determinant, quasiconcave functions, Lagrangian method.

●授業の一般目標 To understand Mathematics using in Microeconomics.

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. Can use basic mathematics. 2. Can calculate derivatives of functions. 3. Understand the basic properties of determinants and can calculate concrete determinants. 4. Understand the meaning of utility maximization problems and expenditure minimization problems, and can solve them. 思考・判断の観点： 1. Can study economic problems using mathematics. 関心・意欲の観点： 1. Have interest concerning economic phenomena around us.

●授業の計画（全体） Preliminary test, review of fundamentals, basics of differentiation, elasticity, local maxima and local minima, constrained utility maximization problem, constrained expenditure minimization problem.

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Preliminary test
第 2 回 項目 The objective of this lecture
第 3 回 項目 Review of fundamentals 1
第 4 回 項目 Review of fundamentals 2
第 5 回 項目 Review of fundamentals 3
第 6 回 項目 Derivatives
第 7 回 項目 Increasing and decreasing
第 8 回 項目 Elasticity
第 9 回 項目 Local maxima and local minima
第 10 回 項目 Global maxima and global minima
第 11 回 項目 Partial derivatives 1
第 12 回 項目 Partial derivatives 2
第 13 回 項目 Simultaneous equations
第 14 回 項目 Constrained utility maximization problem
第 15 回 項目 Constrained expenditure minimization problem

●成績評価方法 (総合) Checking assignments given.

●教科書・参考書 教科書： Use prints

●メッセージ Have to solve assignments given in each lecture.

●連絡先・オフィスアワー E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, Tel:933-5595, Office:C213. If you have any question, visit my office at any time.

開設科目	Advanced Macroeconomics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山田正雄				

●授業の概要 Introduction to macroeconomics

●授業の一般目標 This course is designed to understand the basic concept and framework of macroeconomics.

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 Gross Domestic Product
第 2 回　項目 Consumption
第 3 回　項目 Investment
第 4 回　項目 Determination of Income
第 5 回　項目 Multiplier Effect
第 6 回　項目 IS Curve
第 7 回　項目 Liquidity Preference
第 8 回　項目 Determination of Interest Rate
第 9 回　項目 LM Curve
第 10 回　項目 IS-LM Model
第 11 回　項目 Fiscal Policy
第 12 回　項目 Monetary Policy
第 13 回　項目 Mundell-Fleming Model
第 14 回
第 15 回

●教科書・参考書 教科書： Macroecconomics, N. G. Mankiw, Worth Publishers

開設科目	Public Economics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	仲間瑞樹				

●授業の概要 The aim of this class is to underatand fundamental and intermediate Public Economic Theory. In order to read many economic papers, especially Public Economics papers, you need enough knowledge of Public Economic Theory. Hence I explain Public Economic Theory in this class.

●授業の一般目標 To understand Public Economic Theory. To build into an economic model using Public Economic Theory.

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： To understand intermediate Micro and Macro Economics using Math.

●教科書・参考書 参考書： I will announce books of reference in my class.

●連絡先・オフィスアワー mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	Cost − Benefit Analysis	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山下訓				

●授業の概要 This course is an introduction to the main ideas of decision theory and game theory.

開設科目	Economic Statistics	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	野村淳一				

●授業の概要 Simulation models have been widely used in the design of public policy. For example, simulation models could answer questions like the following: (1) What is the impact of an increase in the federal budget deficit on the level of interest rates and the rate of inflation? (2) How does the trade deficit affect the level of employment and the bargaining position of labor unions? (3) What is the relationship between the quantity of money, say M1, and the level of economic activity? This course focuses upon econometric simulation models. Therefore we explain how to estimate a single equation model at first. For most economic decision or choice problems, we want to know the relationships between economic variables, which are suggested by economic theory. These are called economic models. These economic models involve questions concerning the signs and magnitudes of unknown and unobservable parameters, such as price elasticities and multipliers.

●授業の一般目標 One of our goals is to give you some idea of how we introduce parameters into an economic model and how we estimate them. Then we discuss the construction, evaluation, and analysis of simultaneous equation models and their use in policy analysis and forecasting. At the end of this course we will construct our own simulation models and evaluate their dynamic behavior.

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 基本的な統計学の理論を理解している。 思考・判断の観点： 現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 統計学の手法を正しく適用し、結果を判断できる。 技能・表現の観点： 発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。 統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

●授業の計画（全体） 1. Single Equation Models 2. Simultaneous Equations Models 3. Dynamic Behavior of Simulation Models

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Statistical model 内容 Statistical model
第 2 回 項目 Econometric estimates 内容 The Least Squares Principle
第 3 回 項目 Statistical inference (1) 内容 R2
第 4 回 項目 Statistical inference (2) 内容 F test
第 5 回 項目 Statistical inference (3) 内容 t tests
第 6 回 項目 Some notes for econometric estimates (1) 内容 seasonality, trends, dummy variables
第 7 回 項目 Some notes for econometric estimates (2) 内容 Heteroskedasticity
第 8 回 項目 Some notes for econometric estimates (3) 内容 Autocorrelation
第 9 回 項目 Simultaneous equations models (1) 内容 Simultaneous equations models
第 10 回 項目 Simultaneous equations models (2) 内容 IS-LM models
第 11 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (1) 内容 Dynamic behavior of simulation models
第 12 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (2) 内容 Stability
第 13 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (3) 内容 Multipliers and dynamic response (1)
第 14 回 項目 Dynamic behavior of simulation models (4) 内容 Multipliers and dynamic response (2)
第 15 回 項目 予備 内容 予備

●成績評価方法 (総合) 課題レポートで判定する。 評価割合は 100 %。

●教科書・参考書 教科書： Basic Econometrics, 4th Edition, Gujarati, Damodar N., McGraw-Hill Higher Education Publishing, 2002 年

●連絡先・オフィスアワー nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 3 回、1 時間程度設ける (講義中に指示)

開設科目	Decision Making	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	成富敬				

●授業の概要 Decisions today are probably more complex and difficult than at any time in the past. To improve our decision making abilities, we should consider both how these decisions are made and how they should be made. In this course we will focus on; 1. decision-making process 2. decision models 3. mathmatical models 4. decision support systems

●授業の一般目標 To improve our decision making abilities.

●授業の計画（全体） 1. decision-making process 2. decision models 3. mathmatical models 4. decision support systems

●成績評価方法 (総合) Exercises: 50 % Attendance: 50 %

開設科目	Program Evaluation	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	Joe SAKURADA				

●授業の概要 This lecture is for the person who wants to learn financial accounting system. Especially in this lecture, I will concentrate on the legal point of view. Before we start learning Japanese accounting system for big companies, we need to study the accounting concept about Japanese Corporation Law & Corporation Tax Law. After we finished those, we can begin to learn the evaluation of accounting system. In Addison to that, it is important for us to understand managers' & shareholders' behaviors in stock market. Then we had better consider Agency theory. The theory contains managers' & shareholders' behaviors. Surely Agency theory is important concept in order to observe accounting system. But the theory is just one element of present-day accounting system and incomplete theory, too. So Let's consider lot of accusations about the Agency theory. ／検索キーワード Japanese Corporation Law & Corporation Tax law, ANTI Agency theory

●授業の到達目標／ 態度の観点： Please be ready to express your countries conditions about financial & tax accounting. I want to know other countries conditions about accounting. 技能・表現の観点： I will use personal computer in this class. So please bring your p.c. to my class. I will give you certain data about Japanese companies. Let's analyze these data with your p.c. The results you get will be evaluated as grade for this class.

●授業の計画（全体） In this country, Japan, financial accounting system has comparatively depended upon Corporation Law & Corporation Tax Law. So in order to understand Japanese financial accounting system, we have to approach to some important regulations. To our regret, some persons have a tendency to start learning accounting without any attentions to Corporation Law & Corporation Tax Law. In this lecture, I try to discuss both agency theory and some regulations with you as possible as I could.

●成績評価方法 (総合) All you have to do is just to continue taking part in this lecture. Sometimes I want you to introduce your countries conditions about financial & tax accounting.

●教科書・参考書 参考書： After guys gathered, I will recommend some texts for you.

●メッセージ To our regret, my abilities to speak & hear English are not so good. Sometimes it will be difficult for you to hear what I say, I think.

●連絡先・オフィスアワー If you get some troubles, come, enter my room (C209).

開設科目	Statistical Decision Making	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員	HASHIMOTO, Hiroshi				

●授業の概要 Decision making using statistical techniques and stochastic models will be treated. Problems of decision making under uncertainty are difficult to solve, but they are interesting and important in their real application. First mathematical preliminaries and basic results are given shortly. Then some useful methods in advanced statistics and operations research are introduced and discussed by using practical examples.

●授業の一般目標 The objectives of this class are to increase understanding of the principles of statistical problem solving and to study the statistical methods and probability models required in the decision making process.

●授業の計画（全体） まず、必要な数学的準備をして、基礎的な概念やモデルを紹介し、主要な手法と例題を取り上げる。

●成績評価方法 (総合) 出席およびレポートによる。

●教科書・参考書 教科書： We will not use a textbook.

●連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	Specialization Course	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	
担当教員					

開設科目	Academic Writing	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	Timothy Takemoto				

●授業の概要 This course is to provide participants with experience of writing papers in English. As subject matter for the class we will consider and discuss defining characteristics and differences between European and Japanese culture. Participants will also be encouraged to present and write about their own research. ／検索キーワード Style, Grammar, Corrections, Presentation, Precis, Japanese Culture

●授業の一般目標 1) To know the rules regarding the style of academic presentations. 2) To develop the ability to present academic manuscripts, and make presentations to generally accepted academic standards.

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1) To know the rules regarding the style of academic presentations.
技能・表現の観点： 2) To develop the ability to present academic manuscripts, and make presentations to generally accepted academic standards.

●授業の計画（全体） 1) Lexical and Grammatical Register Students will be encouraged to become aware of the differences between formal (academic) and informal (conversational) vocabulary and grammar. Emphasis will be placed in raising students ’ awareness of the register of the lexicon and grammatical structures used in academic writing. 2) Academic Grammatical Constructions Students will be introduced and trained in the use of typical academic grammatical forms, in particular: the passive voice, compound sentences, and structures for making hypotheses, asserting conclusions and refuting arguments. 3) Abstracts and Pr & eacute;cis The methods and rules for producing pr & eacute;cis and abstracts of ones own and others work will be taught with emphasis placed on developing students ’ ability to condense, paraphrase and synopsise work in their own research field. 4) Structure and Organisation The structure and organisation of academic presentations, journal papers will be introduced with reference to cultural norms and international standards. Students will be required to present their own research in a format applicable for presentation and publication according to recognised academic structural norms. 4) Plagiarism, References and Citation Students will be advised as to the rules concerning the use, and abuse, of references to other academic works, including standards for citation, references and bibliographies. Students will also be guided in the use of search techniques and databases for the retrieval of pertinent bibliographic material. 5) Correction and Amendment Standards and techniques for the correction and amendment of academic texts will be introduced via reciprocal feedback and mock ‘ peer review ’ . Students will be required to present their own research and to provide constructive comment on the work of others. 6) Formal Presentation Students will be required to give a formal presentation to their peers and to a wider public via the World Wide Web. The use of information processing technology, such as Microsoft PowerPoint will be discussed.

●成績評価方法 (総合) Participants will be evaluated by reference to participation in class and frequent written submissions and a final presentation.

●メッセージ Please bear in mind that you will be required to submit your writing weekly via email.

●連絡先・オフィスアワー mail: tim@yamaguchi-u.ac.jp homepage: http://www.nihonbunka.com

開設科目	企業管理組織の理論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	長谷川光圀				

●授業の概要 この講義は、修士課程の学生を対象にし、企業管理組織の理論的発展を詳細に分析するものである。

それは、経営学関係の修士論文を作成する上で、必ず知っておかなければならない重要研究論文を、多数取り上げている。／検索キーワード 戦略、管理組織、状況、硬直的管理組織、弾力的管理組織

●授業の一般目標 企業組織の重要理論について、正しい理解を修得させる。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 専門知識の正しい理解と活用、 思考・判断の観点： 論理性、展開力

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 企業管理組織の意義
第 2 回　項目 古典的組織論 (ウ乾弍)
第 3 回　項目 古典的組織論（ファイヨル）
第 4 回　項目 その他の管理組織論
第 5 回　項目 バーナードの近代的管理組織論
第 6 回　項目 バーナードの近代的管理組織論
第 7 回　項目 サイモンの管理組織論
第 8 回　項目 マーチとサイモンの管理組織論
第 9 回　項目 コンテ殴鵐璽鵐掘射
第 10 回　項目 コンテ殴鵐璽鵐検射
第 11 回　項目 個別事例研究：戦略と組織
第 12 回　項目 個別事例研究：戦略と組織
第 13 回　項目 情報革命と組織：企業内ネットワーク
第 14 回　項目 情報革命と組織：企業間ネットワーク
第 15 回　項目 その他

●教科書・参考書 教科書： 占部都美, 近代管理論の展開,

●メッセージ この講義は、出席を重視し、発言を評価し、新しい問題の提案を歓迎する。

開設科目	現代企業組織の事例研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	長谷川光圀				

●授業の概要 企業管理組織の理論研究を踏まえて、この授業では、個別ケースと取上げる。／検索キーワード 経営組織の問題を扱うので、政治経済の議論は、期待できない。

●授業の一般目標 個別の事例研究で、理論を越えた微妙なタイミング、交渉、駆け引き当が見えて来る。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 経営組織の基本的知識を前提にし、最近の経営組織問題について、理解を深める。 思考・判断の観点： 最近の戦略と組織問題について、思考し判断できる。

●授業の計画（全体） 授業は、最近の欧米の経営管理の個別動向を紹介し、議論を求める。
米国企業の管理組織の動向
日本企業の管理組織の動向
中国への日本企業の進出

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 組織の再編 内容 事業部制の問題
第 2 回 項目 組織の再編 内容 事業部制の問題
第 3 回 項目 組織の再編 内容 職能別組織の問題
第 4 回 項目 組織の再編 内容 職能別組織の問題
第 5 回 項目 分社制組織
第 6 回 項目 分社制組織
第 7 回 項目 ナレッジ管理
第 8 回 項目 ナレッジ管理
第 9 回 項目 ネットワーク組織
第 10 回 項目 ネットワーク組織
第 11 回 項目 ネットワーク組織
第 12 回 項目 組織文化と開発
第 13 回 項目 組織文化と開発
第 14 回 項目 組織開発の方法
第 15 回 項目 組織開発の方法

●メッセージ 授業は出席し、自分の考えるところを、述べる。

開設科目	新事業創造論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	有村貞則				

開設科目	国際経営論の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	単位	開設期	前期
担当教員	有村貞則				

●授業の概要 指定テキストは、世界的に有名な国際経営学者たちが執筆したものですが、そのタイトル『What is International Business?』からもわかるように、国際経営学理論の基礎・本質を十分に踏まえながら、最近の研究動向を紹介してくれています。この授業では、この本の輪読を通して国際経営学への理解を深めたいと思います。なお、英語の文献なので、受講にあたっては、ある程度の英語力が必要になります。

●授業の一般目標 国際経営の基礎・本質の理解 国際経営学研究の最新の動向を理解 一流の国際経営学者の考え方に触れるとともに、その問題点を考える

●授業の計画（全体） テキストの章（以下参照）ごとに担当者を割り当て、レジメ作成および発表を行ってもらいます。 ・Mark Cason, Vision of International Business, ・Stephen J. Kobrin, Technological Determinism, Globalization and the Multinational Firm ・ Bruce Kogut, Of Beatuty Finding the Relevant Beast : the Field of International Business and the Dialogue of Fact and Theory ・Daniel P. Sullivan and John D. Daniels, Defining International Business through Its Research ・Witold J. Henisz, The Institutional Environment for International Business・Alan M. Rugman and Alain Verbeke, Regional Multinationals

●成績評価方法 (総合) 出席、発表、発言

●教科書・参考書 教科書: What if International Business?, Peter J.J. Buckley(editor), Palgrave macmillan, 2004 年

●連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	国際経営論の応用研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	単位	開設期	後期
担当教員	有村貞則				

●授業の概要 国際経営といっても、そのテーマは多岐にわたります。例えば、海外直接投資の決定要因、参入モード、グローバル企業の組織、グローバル・マーケティング、海外派遣者管理などです。この講義では、これらの主要テーマに関連する最新の学術論文を読むことにより、今後、国際経営の研究を進める上で、必要とされているトピック・課題は何かを考えていきたいと思います。なお、学術論文は、国際経営の世界で最も有名な『Journal of International Business Studies』からピックアップしていきます。

●授業の一般目標 1．世界水準の学術論文に触れる 2．国際経営学研究の今後の課題を考える。

●成績評価方法 (総合) 出席、発表、発言

●教科書・参考書 教科書： 論文コピーを配布します

開設科目	国際経営論の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	有村貞則				

●授業の概要 国際経営論の基礎研究（科目名変更）: この授業では，多国籍企業に関する基礎的理論 を習得します。

●授業の一般目標 多国籍企業や国際経営の基礎理論習得

●授業の計画（全体） １．多国籍化の理論 ２．国際経営の理論

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 バーノンのプロ ダクトサイクル 理論 (1)
第 2 回　項目 バーノンのプロ ダクトサイクル 理論 (2)
第 3 回　項目 ハイマーの対外 事業活動論 (1)
第 4 回　項目 ハイマーの対外 事業活動論 (2)
第 5 回　項目 フェアーフェザ ーの国際経営論 (1)
第 6 回　項目 フェアーフェザ ーの国際経営論 (1)
第 7 回　項目 ダニングの折衷 理論 (1)
第 8 回　項目 ダニングの折衷 理論 (2)
第 9 回　項目 多国籍企業の組 織論 (1)：スト ッ プフォード＆ウ ェルズ
第 10 回　項目 多国籍企業の組 織論 (2)：バー ト レット＆ゴシャ ール
第 11 回　項目 多国籍企業の組 織論 (3)：ゴシ ャ ール
第 12 回　項目 グローバル戦略 論：マイケルポ ーター
第 13 回　項目 異文化経営論 (1)：ホフステ ッ ド
第 14 回　項目 異文化経営論 (2)：ホフステ ッ ド
第 15 回　項目 グローバル企業 の戦略提携

●成績評価方法 (総合) 出席および授業中の発表で評価します

●教科書・参考書 参考書： 論文を適時配布します

●連絡先・オフィスアワー arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	資本市場の財務情報の役割研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	松浦良行				

●授業の概要 近年、無形固定資産の株価説明力が注目されてきています。この講義では、下の教科書欄に示す本を中心として、研究開発活動と株価の関係を理解していきます。／検索キーワード 財務報告、R & D、資本市場

●授業の一般目標 受講生の皆さんが、研究開発の経済的価値計算の基本フォーマットを把握し、その管理方法を含めた管理技法に関心を持てるようになれば、と思っています。

●授業の計画（全体） 技術評価の方法の基本フォーマットを把握し、表計算ソフトを利用して実際に研究開発の財務的管理の概要を理解していきます。

●成績評価方法 (総合) 講義に出席し、議論・分析にきちんと参加されているかで評価します。テスト等は行いません。

●教科書・参考書 教科書： 技術経営と価値評価, P. ボイヤー, 日本経済新聞社, 2004 年

●連絡先・オフィスアワー matu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報の蓄積と検索研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	橋本寛				

●授業の概要 情報管理の中で中心的位置をしめる情報検索 (Information Retrieval)、すなわち情報の蓄 積と検索について、数学的モデルを構築し基礎的考察を行う。

●授業の一般目標 情報検索の数学的モデルを構築し、その性質を明らかにする。

●授業の計画（全体） まず、必要な数学的準備をして、検索モデルを構築し、そのモデルの性質などについて議論す る。

●成績評価方法 (総合) 出席およびレポートによる。

●教科書・参考書 教科書： 使用しない。

●メッセージ 集合や論理について基礎的な知識があれば都合がよい。

●連絡先・オフィスアワー 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	金融システムとファイナンス研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	兵藤隆				

●授業の概要 この講義では、金融工学（ファイナンス）理論や情報の経済学など、よりアドバンスド（発展的）な金融理論を理論的・実証的に検証していくことを目的とする。／検索キーワード 金融工学　ファイナンス　投資決定理論

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 ガイダンス
第 2 回　項目 ファイナンス理論の流れと概要 1
第 3 回　項目 ファイナンス理論の流れと概要 2
第 4 回　項目 統計学の基礎 1
第 5 回　項目 統計学の基礎 1
第 6 回　項目 平均・分散アプローチ 1
第 7 回　項目 平均・分散アプローチ 2
第 8 回　項目 CAPM 理論 1
第 9 回　項目 CAPM 理論 2
第 10 回　項目 APT（価格裁定理論）
第 11 回　項目 行動ファイナンス理論
第 12 回　項目 デリバティブの概要
第 13 回　項目 オプション価格決定理論 1
第 14 回　項目 オプション価格決定理論 2
第 15 回　項目 予備

●メッセージ 統計学や基礎的な数学ツールは各自で補ってください。

開設科目	企業法研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	一ノ澤直人				

●授業の概要 本年度は、企業法の中でも改正が進む会社法について研究する。会社法の諸制度を機能的に理解し、日々変化している企業のあり方や会社を取り巻く社会状況を踏まえ、適正な会社法制度のあり方を探究したい。／検索キーワード 会社法、企業法、コーポレートガバナンス

●授業の一般目標 本講では、企業法に関する問題を比較法的に研究することで、現代企業法の特質、およびその問題点をあきらかにし、企業法制の在り方を検討することを目的とする。

●授業の計画（全体） 本講義は、参加者の研究報告をもとに対話形式で議論していく。各人の研究テーマから報告者の関心等を踏まえ研究報告をしてもらう予定である。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 ガイダンス
第 2 回　項目 研究報告・検討
第 3 回　項目 研究報告・検討
第 4 回　項目 研究報告・検討
第 5 回　項目 研究報告・検討
第 6 回　項目 研究報告・検討
第 7 回　項目 研究報告・検討
第 8 回　項目 研究報告・検討
第 9 回　項目 研究報告・検討
第 10 回　項目 研究報告・検討
第 11 回　項目 研究報告・検討
第 12 回　項目 研究報告・検討
第 13 回　項目 研究報告・検討
第 14 回　項目 研究報告・検討
第 15 回　項目 研究報告・検討

●成績評価方法 (総合) 報告内容、議論内容及びレポート等によって評価する。

●教科書・参考書 教科書: The Reform of United Kingdom Company Law, John de Lacy (ed), Cavendish Publishing Limited ／ 参考書： その他、参考文献については、適宜連絡する。

●メッセージ 受講者は、会社法関連のテーマ・判例を中心に、自己の関心・問題意識から、とくに本講義で検討したい点を、幾つか考えておくこと。

開設科目	企業法研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	一ノ澤直人				

●授業の概要 本講では、企業法に関する近時の判例を中心に研究する。

●授業の一般目標 判例の研究を通じて、現代企業法の特質、およびその問題点をあきらかにし、企業法制の在り方を検討することを目的とする。

●授業の計画（全体） 本講義は、参加者の判例研究報告をもとに対話形式で議論していく。最新の判例から報告者の関心等を踏まえ研究報告をしてもらう予定である。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 ガイダンス
第 2 回　項目 判例報告・検討
第 3 回　項目 判例報告・検討
第 4 回　項目 判例報告・検討
第 5 回　項目 判例報告・検討
第 6 回　項目 判例報告・検討
第 7 回　項目 判例報告・検討
第 8 回　項目 判例報告・検討
第 9 回　項目 判例報告・検討
第 10 回　項目 判例報告・検討
第 11 回　項目 判例報告・検討
第 12 回　項目 判例報告・検討
第 13 回　項目 判例報告・検討
第 14 回　項目 判例報告・検討
第 15 回　項目 判例報告・検討

●成績評価方法 (総合) 報告内容、議論内容及びレポート等によって評価する。

●教科書・参考書 教科書： 株式会社・有限会社法, 江頭憲治郎, 有斐閣； その他、参考文献については、適宜連絡する。

●メッセージ 受講者は、企業法関連の判例を中心に、自己の関心・問題意識から近時の判例について幾つか検討しておくこと。

開設科目	高齢化社会の経済学的研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	植村高久				

●授業の概要 日本における高齢化の進展から生じる経済的問題を総合的多面的に考察する。

●授業の一般目標 少子高齢化が及ぼす経済的効果について、様々な影響の回路を理解して、包括的・総合的に判断できる。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 日本の少子高齢化の状況と見通し、その原因について概略説明できる。　思考・判断の観点： 少子高齢化の作用について、推論できる。

●授業の計画（全体） 資料を講読して、高齢化の作用を解読する。

●成績評価方法 (総合) 主に演習への参加度によって評価するが、最終レポートを補助的に利用する。

●教科書・参考書 教科書： 授業時にプリントを配布する。

開設科目	経済心理学研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	馬田哲次				

●授業の概要 人間を意識面からとらえなおし、それをもとに、豊かさ、富について考える。そして、豊かさを実現するうえにおいて、今日の経済社会システムが影響を与えているプラス面とマイナス面について考察し、さらに、経済社会システムをどのように再構築すれば豊かさを実現しやすいかについて考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 経済心理学とは
第 2 回　項目 新古典派経済学批判
第 3 回　項目 経済学とは何か
第 4 回　項目 新しい人間観（１）
第 5 回　項目 新しい人間観（２）
第 6 回　項目 豊かさと富
第 7 回　項目 自然・経済・人間
第 8 回　項目 資本主義経済の特徴
第 9 回　項目 労働
第 10 回　項目 組織
第 11 回　項目 市場・貨幣
第 12 回　項目 消費
第 13 回　項目 環境問題
第 14 回　項目 新しい経済・社会システム
第 15 回　項目 まとめ

開設科目	日本経済史研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	木部和昭				

●授業の概要 テーマ：産業革命期の日本経済　本講義では、明治 20(1887) 年頃から日露戦争後 (1910 年頃) にかけて展開したとされる 産業革命期の日本経済について取り上げる。日本の産業革命は、日本経済近代化の端緒 であると同時に、様々な面で日本という国を大きく変容させていった。では、日本の産 業革命は、欧米諸国のそれと比べてどの様な特徴を持ち、具体的にいかなる過程をたど って展開していったのか、あるいは産業革命を達成できた要因は何であったのか、とい った点について考察を加えていきたい。そうした上で、産業革命が地域社会に及ぼした 影響についても、具体的事例を取り上げながら詳細に検討してみたい。／検索キーワード 日本経済史、日本近代史、産業革命

●授業の一般目標 ・産業革命が日本の地域社会をどの様に変えたのかを理解する。 ・経済史の分野で地域社会を分析する視角を養う。

●授業の計画（全体） 当面は下記のテキスト、石井寛治『日本の産業革命』を中心に進めるが、受講生の興味関心に応じて、適宜、別の図書・論文の講読も行う。受講者には順次報告を課し、そ れについての討論および補足を行いながら進めていく。また、関係する基本的文献・資 史料を把握し、また、それらを用いた資史料講読も行う。

●成績評価方法 (総合) 課題の報告 (45 %) およびレポート (30 %) による。この他、授業への取組み (15 %)、出席 (10 %)。

●教科書・参考書 教科書： 『日本の産業革命』, 石井寛治, 朝日新聞社, 1997 年／ 参考書： この他の参考書は適宜紹介する。

●メッセージ ・講義内容は、受講者の専攻及び興味関心によって、変更になる場合があ る。 ・この授業は前期に開講する。

●連絡先・オフィスアワー 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail；kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西欧文化の研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	鴨川 啓信				

●授業の概要 現代の思想家 Susan Sontag の著作 ”Illness as Metaphor” (1978) を読んでいく。「病気」とそれが持つ社会的・文化的意味に関する Sontag の鋭い分析を読み、西洋の考え方と日本人の考え方の類似点・相違点を考察する。

●授業の一般目標 比較的複雑な思想が示される論述文を読みこなす英語力の向上を目指す。また、思想の内容を理解することで、より広い教養を身に付ける。

●授業の計画（全体） 教材を半期の間に最後まで読み通す。

●成績評価方法 (総合) 授業時の発表 (2)、期末レポート (8) に基づき成績評価を下す。尚、( ) 内の数字はおおよその割合を示している。

●教科書・参考書 教科書： 教材は授業時にプリントで配布する。／ 参考書： 『隠喩としての病い・エイズとその隠喩』, スーザン・ソンタグ, みすず書房, 1992 年

●連絡先・オフィスアワー 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西欧文化の講読研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	鴨川 啓信				

●授業の概要 現代の思想家 Susan Sontag の著作 ”AIDS and Its Metaphor” (1989) を読んでいく。 AIDS という「病気」とそれが持つ社会的・文化的意味に関する Sontag の鋭い分析を読み、西洋の考え方と日本人の考え方の類似点・相違点を考察する。

●授業の一般目標 比較的複雑な思想が示される論述文を読みこなす英語力の向上を目指す。また、思想の内容を理解することで、より広い教養を身に付ける。

●授業の計画（全体） 教材を半期の間に最後まで読み通す。

●成績評価方法 (総合) 授業時の発表 (2)、期末レポート (8) に基づき成績評価を下す。尚、( ) 内の数字はおおよその割合を示している。

●教科書・参考書 教科書： 教材は授業時にプリントで配布する。／ 参考書： 『隠喩としての病い・エイズとその隠喩』, スーザン・ソンタグ, みすず書房, 1992 年

●連絡先・オフィスアワー 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	環境変化と管理会計の課題研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤田 智丈				

●授業の概要 管理会計の伝統的な理解では、経営は経営陣が担う戦略策定、管理職が担うマネジメント・コントロール、現場が担うオペレーション・コントロールと、階層に分けられてきました。そして管理会計が主に担うのはマネジメント・コントロールであり、戦略についてはそれを所与として受け入れるだけでした。しかし、90 年代頃から戦略の重要性が高まるにつれ、管理会計の役割も従来の戦略を所与とした考え方ではなく、戦略と密接に繋がり、戦略と一体化したマネジメントとして捉え直されるようになりました。そこでこの授業では、バランスト・スコアカードと呼ばれる戦略的管理会計手法を中心として、現代の管理会計が直面する課題について検討します。

●授業の一般目標 ＢＳＣ（バランスト・スコアカード）の考え方を身につけ、戦略をマネジメント（戦術）へと落とし込むことや、財務パフォーマンス向上に繋がる財務指標と非財務指標の関連を考えることができるようになる。

●授業の計画（全体） ＢＳＣに関する文献を中心に、現代の戦略的マネジメント・コントロールに関して議論していく。

●成績評価方法 (総合) 定期試験は行いません。授業での発表や議論、及び最終レポートで評価します。

●教科書・参考書 教科書： 初回の授業の際に決定します。／ 参考書： 管理会計の基本的なことについては各自で学習しておいてください。 加登豊『管理会計入門（日経文庫)』日本経済新聞社、1999 年

開設科目	戦略的コスト・マネジメントと管理会計研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤田　智丈				

●授業の概要 企業競争がますます激化する中で、勝ち組・負け組といった差がはっきりと現れ始めています。このような差が生まれる原因の一つに、戦略の策定と遂行の問題があります。戦略とは、組織の長期的目標であり、その目標達成のために従業員を導くものでなければなりません。近年になり管理会計でも戦略性を伴うことが重要な課題となっています。そこで、この授業では戦略的管理会計、具体的には原価企画や ABC/ABM、ライフサイクルコスティングといった課題について検討します。

●授業の一般目標 戦略を理解し、戦略的マネジメントを理解する。また、有効なコストマネジメントを検討する考え方を身につける。

●授業の計画（全体） まず、戦略とは何か、戦略的経営とは何かということについて学習します。そのうえで、戦略を実現するための様々な管理会計手法について詳しく学習します。

●成績評価方法 (総合) 定期試験は行いません。授業での発表や議論、及び最終レポートで評価します。

●教科書・参考書 教科書： 初回の授業の際に決定します。／ 参考書： 管理会計の基本的なことについては各自で学習しておいてください。 加登豊『管理会計入門（日経文庫）』日本経済新聞社、1999 年

開設科目	企業環境の変化と原価計算研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	中田範夫				

●授業の概要 企業の環境変化とともに伝統的原価計算技法は不適切になりつつあると言われている。新しい環境に対しては伝統的原価計算方法に代わって活動基準原価計算という方法が有効であると主張されている。活動基準原価計算について学習する。

●授業の一般目標 活動基準原価計算に関する基本的文献を読むことによってこの原価計算についての理解を深める。

●授業の計画（全体） テキストを学生と一緒に読んでいく形で授業を進めたい。

●成績評価方法 (総合) 授業での態度や授業への参加度を評価の基準とする。

●教科書・参考書 教科書： 後日相談して決めたい。

●連絡先・オフィスアワー 電話：933-5556（研究室）

開設科目	直接原価計算論研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中田範夫				

●授業の概要 直接原価計算は外部報告目的としては利用できない。しかし、経営管理のための手段としてはその有用性が認められている。例えば、短期利益計画やセールスミックスについてである。　テキストを用いて、直接原価計算の全体像について理解したい。

●授業の一般目標 直接原価計算に関する基本的な点を理解する。

●授業の計画（全体） テキストを使用し、それを報告してもらう形で授業を進める。

●成績評価方法 (総合) 出席と報告によって評価する。

●教科書・参考書 教科書： 未定

開設科目	情報伝達と財務会計研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山下訓				

●授業の概要 本来、会計は情報伝達機能を内在するのものであるが、今日では伝達機能が重視されてい る。
本講義では、情報伝達の観点から、利害調整等会計の基本機能について学んでいく。

●教科書・参考書 教科書： 参加者と相談する。

●連絡先・オフィスアワー yamasita@po.cc.yamaguchi-u.c.jp 内線５５１８

開設科目	情報処理基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	成富敬				

●授業の概要 経済や経営におけるさまざまな問題に科学的手法を用いて対処するための，情報処理の基礎的事項について考察する．

開設科目	国際メディア研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	マルク・レール				

●授業の概要 国際比較に基づいて新聞の歴史的発展、新聞市場の現状や将来性について理論的に分析。／検索キーワード マス・メディア、新聞

●授業の一般目標 媒体論的アプローチによって新聞の特質を分析する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 新聞の歴史的発展とメディア的構造を理解する。 思考・判断の観点： 新聞の媒体としての役割について判断ができる。 関心・意欲の観点： 新聞に包括的に関心を持つ。 態度の観点： 自分の研究分野に新聞を活かす。 技能・表現の観点： 専門的なレベルで新聞に関して議論ができる。

●授業の計画（全体） 1. 欧米と日本の新聞の歴史的発展。 2. 欧米と日本の新聞市場の現状。 3. 新聞紙面とジャーナリズム。 4. ニュースとニュースデザイン。 5. 新聞の将来。

●成績評価方法 (総合) 授業の参加度 (40 %）+レポート（60 %)

●メッセージ 毎回の授業の具体的な内容は、受講者の関心と専門知識レベルを参考にして調整す る。

●連絡先・オフィスアワー loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代日本の労使関係研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	濱島清史				

●授業の概要 現代日本の労使関係について、主に労組、経営者団体、政策の戦後の動向を辿っていき、各自の歴史認識を深めることをねらいとする。労使関係には上記以外に日本的労使関係の考察や労務管理なども考えられるが、本講義では政労使三者関係史を中心に概観していくことにする。 なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。ちなみに，昨年前期は、高橋伸夫 (2004)『虚妄の成果主義』日経 BP. を中心に、他に日本的雇用慣行の基本文献を数本やり、さらに各自の発表を自由課題で行なった。／検索キーワード 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使関係、日本的雇用慣行

●授業の一般目標 現代日本の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解すること。

●授業の計画（全体） ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト (1) か (2) のいずれかを輪読し、毎回参加者にレジュメを作成して報告してもらう。なお、下記の参考書 (2) はテキストとの立場上のバランスをとるために挙げている。 それが終わったら、テキスト (3) の 1990 年以降の「第 1 概説」部分を毎回輪読していく。発表者にはできれば白書全頁とさらに参考文献を併せて読んできて報告することを期待する。その他の参加者も少なくとも十数年分の「第 1 概説」を通読して知識を養ってもらう。経済白書や世銀の年報の数年分の輪読は、他の大学院のゼミでも取り入れられており、とても有意義な方法と認識している。 ただし、昨年同様、基本文献と関連文献をいくつか輪読し、各自の自由課題で締め括るという方向になるかもしれない。

●成績評価方法 (総合) 成績評価方法 (総合) レジュメ発表と学期末レポート。レポートが 50 %、発表が 40 %、出席が 10 %。 成績評価方法 (観点別) 講義形式とゼミとでは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。 定期試験 (中間・期末試験) 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 小テスト・授業内レポート 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 １０点 宿題・授業外レポート 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 ５０点 授業態度・授業への参加度 毎回、出席を確認する。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。 １０点 受講生の発表 (プレゼン)・授業内での制作作品 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 ２０点 出席 毎回、出席を確認する。 １０点 合計 １００点

●教科書・参考書 教科書： ・テキスト候補 (1) 神代和欣・連合総合生活開発研究所編 (1995)『戦後 50 年産業・雇用・労働史』 日本 労働研究機構. (2) 兵藤ツトム (1997)『労働の戦後史』東京大学出版会. (3)(厚生) 労働省『労働運動白書』大蔵省印刷局、各年版. ・参考書は適宜指摘するが、さしあたり (4) 法政大学大原社会問題研究所編 (1999)『日本の労働組合 100 年』旬報社. (5) 労働問題実践シリーズ編集委員会編 5『労働組合を創る』大月書店. 教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。／ 参考書： 適宜指示する。

●メッセージ 共に学ばん！

●連絡先・オフィスアワー tel：083 − 933 − 5521。E メール・アドレス：hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	労使関係の国際比較研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	濱島清史				

●授業の概要 比較研究をすることによって対象への認識は深まるものであり、何らかの比較のないところでは対象の位置づけ自体が定まらなくなってしまう。本講義では労使関係の国際比較を行なうことによって、各自の専門 (関心) 領域に幅をもたせてもらうことをねらいとする。 先進国―日本―途上国の三段階の労使関係論を体系的に構築していく魁とならんことを期待したい。 なお、受講生の希望によっては、日本的雇用慣行、キャリア形成の議論にしてもよい。昨年後期は、日本・中国・カナダの労使関係に関する基本文献を数本輪読してから、今野浩一郎 (1998)『勝ち抜く賃金改革』日本経済新聞社. を輪読し、さらに各自の発表を自由課題で行なった。／検索キーワード 労使関係、労働組合、経営者団体、政労使関係、日本的雇用慣行

●授業の一般目標 世界の主要国の労使関係の基本事項について認識すること。または日本的雇用慣行に関して、社会通念に囚われない、統計と先行研究に基づいた社会科学的な議論を理解し、他国と比較検討できること。

●授業の計画（全体） ゼミ形式で進める。すなわち、下記テキスト (1)(2) から何部か選択して輪読していき、毎回参加者にレジュメを作成して報告してもらう。ゼミの後半は、各自が関心を持つ国に関して調べてきて発表してもらいたい。 ただし、昨年同様、基本文献と関連文献をいくつか輪読し、各自の自由課題で締め括るという方向になるかもしれない。

●成績評価方法 (総合) 成績評価方法 (総合) レジュメ発表と学期末レポート。レポートが５０％、発表等が４０％、出席が１０％。 成績評価方法 (観点別) 講義形式とゼミとでは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。 定期試験 (中間・期末試験) 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 小テスト・授業内レポート 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 １０点 宿題・授業外レポート 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 ５０点 授業態度・授業への参加度 毎回、出席を確認する。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。 １０点 受講生の発表 (プレゼン)・授業内での制作作品 基本的に発表形式 (レポート、レジュメ、プレゼン) を採る。 ２０点 出席 毎回、出席を確認する。 １０点 合計 １００点

●教科書・参考書 教科書： ・テキスト候補 (1) 桑原靖夫、グレッグ・バンバー、ラッセル・ランズベリー編 (1994)『先進諸国 の 労使関係―国際比較：21 世紀に向けての課題と展望―』日本労働研究機構. (2)「特集●開発主義と労使関係」日本労働研究雑誌 1999 年 8 月号、No.469. ・参考書は適宜指摘するが、さしあたり (3) 稲上毅・H. ウィッタカー他 (1994)『ネオ・コーポラティズムの国際比較―新し い 政治経済モデルの探索―』日本労働研究機構. (4) 日本労働協会編『海外調査シリーズ、○○国の労働事情』日本労働協会 (現日本 労働研究機構). 教科書は学生との相談の上で決める。上記はあくまで参考程度である。／ 参考書： 適宜指示する。

●メッセージ 共に学ばん！

●連絡先・オフィスアワー tel：083 − 933 − 5521。E メール・アドレス：hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	流通システムの基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤田健				

●授業の概要 流通は生産と消費のへだたりを埋める役割を果たす。流通機関は流通機能を分担して遂行 し、流通機能の分担関係は時代とともに変化していく。本講義は、このような流通システムを 分析するための基礎理論を学ぶ。／検索キーワード 流通，商業，マーケティング

●授業の一般目標 1. 流通理論を体系的に修得する。 2. 流通現象の動態を理解する。

●授業の計画（全体） 教科書の輪読をおこない、受講者とのディスカッションを通じて流通論を理解する。

●成績評価方法 (総合) 報告内容 (40 %)，ディスカッション (30 %)，レポート (30 %) で評価する。

●教科書・参考書 教科書： 教科書は受講者の希望をもとに決定する。候補として、次のようなものがある。・高嶋克義『現代商業学』，有斐閣アルマ。 ・矢作敏行『現代流通』，有斐閣アルマ。 ・原田英生, 向山雅夫, 渡辺達朗『流通と商業』, 有斐閣アルマ。 ・田村正紀『流通原理』, 千倉書房。

開設科目	流通システムの応用研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤田健				

●授業の概要 わが国の流通は、情報技術の革新，ロジスティクスやサプライチェーン概念の普及，製販戦略提携などによって、調達・生産・物流・販売の各所でめざましい変貌を遂げている。それに対応して、流通研究の研究対象や方法も大きく変化している。そこで本講義では、現代の流通・営業戦略を学び、流通研究における現代的な研究課題を理解する。／検索キーワード 流通，マーケティング・チャネル，営業，物流，関係管理

●授業の一般目標 1. 現代の流通・営業戦略の知識を習得する。 2. 流通研究における研究課題を理解する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 現代の流通現象や流通理論を理解できるようになる。 関心・意欲の観点： 現代の流通現象や流通研究に関心を示し、積極的にディスカッションに参加する。

●授業の計画（全体） 教科書の輪読をおこない、受講者とのディスカッションを通じて最新の流通研究を理解する。 1. イントロダクション 2. 流通・営業戦略の新視点 3. マーケティング・チャネルのマネジメント 4. 消費者起点の戦略的情報フロー管理 5. 顧客インターフェイス 6. 営業 7. ロジスティクス 8. 販売部門と生産部門のリンケージ 9. サプライヤー・マネジメント 10. 顧客関係マネジメント 11. 総括

●成績評価方法 (総合) 報告内容 (40 %)，ディスカッションへの参加 (30 %)，レポート (30 %) で評価する。

●教科書・参考書 教科書： 流通・営業戦略, 小林哲・南知恵子, 有斐閣アルマ, 2004 年／ 参考書： 流通ビジネスモデル, 宮下淳・箸本健二編著, 中央経済社, 2002 年； 営業が変わる, 石井淳蔵, 岩波書店, 2004 年； サプライチェーン経営革命, 福島美明, 日本経済新聞社, 1998 年； インターネット・マーケティングの原理と戦略, ワード ・ハンソン著 ; 長谷川真実訳, 日本経済新聞社, 2001 年

●メッセージ 「流通システムの基礎研究」を履修済みであることが望ましい。

開設科目	現代企業のファイナンス戦略と企業評価研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	城下賢吾				

●授業の概要 伝統的ファイナンス論への心理学の適用について研究します。

開設科目	外国文献研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	城下賢吾				

●授業の概要 マーケティング・流通分野でホットトピックの一つとなっている「サプライチェーン」に関する英語文献を輪読する。／検索キーワード 流通，サプライチェーン，マーケティング，ロジスティクス

●授業の一般目標 1. サプライチェーンとは何かを理解する。 2. サプライチェーンの分析枠組みを理解する。

●授業の計画（全体） 1.Introduction: What is Supply Chain Management 2.Supply Chain in the Global Environment 3.The Consequences of Supply Chain Management 4.The Role of Marketing in Supply Chain Management 5.The Dynamic Role of the Sales Function in Supply Chain Management 6.Research and Development in Supply Chain Management 7.Improving Supply Chain Forecasting 8.The Evolution and Growth of Production in Supply Chain Management 9.Purchasing in a Supply Chain Context 10.The Role of Logistics in the Supply Chain 11.The Evolution and Growth of Information Systems in Supply Chain Management 12.Financial Issues of Supply Chain Management 13.Customer Service in a Supply Chain Context 14.Inter-functional Coordination in Supply Chain 15.Inter-Corporate Coordination in Supply Chain

●成績評価方法 (総合) 報告内容 (70 %)，ディスカッションへの参加度 (30 %) により総合的に評価する。

●教科書・参考書 教科書： Supply Chain Management, John T. Mentzer (ed.), Sage Publications, 2001 年／ 参考書： 製販統合, 石原武政・石井淳蔵（編著）, 日本経済新聞社, 1996 年

●メッセージ 前期開講の「流通システムの基礎研究」を受講済みであることが望ましい。

開設科目	経営史の基礎研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	古川澄明				

●授業の概要 受講者の修士論文の作成を前提にして、受講者の経営学的基礎知識を深める。／検索キーワード 意欲的に議論に参加し、専門知識を学び取ろう。

●授業の一般目標 修士論文の作成に繋がるような授業を行うので、受講者と相談の上で、テーマを選択する。目標は、修士論文の基礎となる経営学基礎知識の修得に置く。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 経営学の専門知識の修得　思考・判断の観点： 学術的論文を作成するための思考力や研究上のアイデア想像力を養うこと。　関心・意欲の観点： 授業で取り上げる論題に対して、常に、積極的に関心を持ち、知識を深めようとする意欲が不可欠である。　態度の観点： 授業は、パッシブな態度ではなく、ポジティブ、アクティブな姿勢が求められる。　技能・表現の観点： 報告を行うことで、プレゼンテーション力を身に付けると同時に、論文の構想力を養うこと。　その他の観点： 授業に自分の研究と結びつけた強い関心と、学ぼうとする意欲が求められる。

●授業の計画（全体） 受講者と相談の上、修士論文作成に役立つようなテーマで、授業を行う。

●成績評価方法 (総合) 受講態度を総合的に判断して評価する。

●メッセージ 特定のテーマで修士論文を書くという明確な目標をもって授業に参加すること。

●連絡先・オフィスアワー アポを取れば、随時。

開設科目	国際比較経営史研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	古川澄明				

●授業の概要 受講者の修士論文の作成を前提にして、受講者の経営学的基礎知識を深める。とくに修士論文の作成についての相談にも応じながら、学べる形をとる。／検索キーワード 意欲的に議論に参加し、専門知識を学び取ろう。

●授業の一般目標 修士論文の作成に繋がるような授業を行うので、受講者と相談の上で、テーマを選択する。目標は、修士論文の基礎となる経営学基礎知識の修得に置く。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 経営学の専門知識の修得　思考・判断の観点： 学術的論文を作成するための思考力や研究上のアイデア想像力を養うこと。　関心・意　関心・意欲の観点： 授業で取り上げる論題に対して、常に、積極的に関心を持ち、知識を深めようとする意欲が不可欠である。　態度の観点： 授業は、パッシブな態度ではなく、ポジティブ、アクティブな姿勢が求められる。　技能・表現の観点： 報告を行うことで、プレゼンテーション力を身に付けると同時に、論文の構想力を養うこと。　その他の観点： 授業に自分の研究と結びつけた強い関心と、学ぼうとする意欲が求められる。

●授業の計画（全体） 受講者と相談の上、修士論文作成に役立つようなテーマで、授業を行う。

●成績評価方法 (総合) 受講態度を総合的に判断して評価する。

●メッセージ 特定のテーマで修士論文を書くという明確な目標をもって授業に参加すること。

●連絡先・オフィスアワー アポを取れば、随時。

開設科目	商品の経済環境研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	柳田卓爾				

●授業の概要 製品差別化に関するジャーナル論文を読む。また、ジャーナル論文を読む際に必要な知 識を身に付けるために、基礎的文献を 1 冊読む場合がある (受講者と相談する)。

●授業の一般目標 ジャーナル論文を緻密に精読する力を身に付けること。

●授業の計画（全体） (1) 基礎的文献を読む (2) ジャーナル論文を読む

●成績評価方法 (総合) 宿題、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度、小テスト、定期試験等を総 合して評価する。出席は、欠格条件である。

●教科書・参考書 教科書： 基礎的文献に関しては、初回授業にて、受講生と相談して決める。ジャーナ ル論文に関しては、コピーを配布する。

●メッセージ 修士課程の学生が身に付けておくことが望ましい、基礎的な力を習得できる ように授業を構成できるよう努力したいと思います。受講生の皆さんも、が んばってついてきて下さい。

●連絡先・オフィスアワー 研究室 C220

開設科目	無形財商品の動向分析研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	柳田卓爾				

●授業の概要 戦略策定に関連する文献を利用して、修士課程の学生が身に付けておくことが望ましいと思われる理論等を学習する。平行して、具体的なサービス（サービスを自社の商品としている企業）をひとつ取り上げて、授業で学んだ基本的な分析ツールを利用して、分析してもらう。具体的なサービスは、受講生各人が決める。分析結果は、中間報告を経て最終レポートとしてまとめ、報告・提出してもらう。

●授業の一般目標 サービスという無形財商品を分析するための基礎的なツールを習得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 ガイダンス
第 2 回　項目 序論、戦略の概念
第 3 回　項目 戦略策定プロセス
第 4 回　項目 中間テスト　その 1 内容 試験範囲　第 2、3 週
第 5 回　項目 中間報告　その 1 内容 受講生各人の個別研究報告
第 6 回　項目 全社レベルの戦略分析
第 7 回　項目 事業レベルの戦略分析
第 8 回　項目 中間テスト　その 2 内容 試験範囲　第 6、7 週
第 9 回　項目 中間報告　その 2 内容 受講生各人の個別研究報告
第 10 回　項目 事業レベルの戦略決定
第 11 回　項目 全社レベルの戦略決定
第 12 回　項目 戦略策定　いくつかの新しい視点
第 13 回　項目 期末試験 内容 試験範囲　第 10、11、12 週
第 14 回　項目 最終レポート報告 内容 受講生各人の個別研究報告
第 15 回　項目 予備日

●メッセージ 修士課程の学生が身に付けておくことが望ましい、基礎的な力を習得できるように授業を構成できるよう努力したいと思います。受講生の皆さんも、がんばってついてきて下さい。

●連絡先・オフィスアワー 研究室 C220

開設科目	企業経営とリスク分析研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	石田成則				

●授業の概要 リスク・マネジメントの概念と手法を整理したうえで、製造物責任や公害補償責任を 取り上げ、それに対応する保険システムとリスク・マネジメント手法の具体的活用に ついて学習する。

●授業の一般目標 テキストの輪読により、リスク・マネジメント手法の現実と、ファイナンシャル・ リスク・マネジメントの中核をなす保険システムの理解を目指す。

●授業の計画（全体） P.G. ムーア（小路正夫訳）『ビジネスリスク・マネジメント』(日経マグロウヒル社、昭和６１年) の輪読

開設科目	企業経営とリスク管理研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	石田成則				

●授業の概要 事業活動リスクについて整理したうえで、ＡＲＴ（保険代替手段)、金融再保険、ファイナイト保険、そして債権流動化のための保険スキームについて学習する。応用例として、国際プロジェクト・ビジネスにおけるリスク管理問題を取り上げる。

●授業の一般目標 国際プロジェクト・ビジネスのリスク管理を事例に、リスクマネジメントの理論と実際を学ぶ。

●授業の計画（全体） 企業経営における事業活動リスクについて整理したうえで、リスク管理の基礎理論と、応用事例について学習する。そのためにつぎのテキストを輪読する。 S.E.Harrington & G.R.Niehaus, Risk Management and Insurance, McGraw-Hill, 1999

●教科書・参考書 参考書： 企業のリスク・ファイナンスと保険, 吉澤卓哉, 千倉書房, 2001 年

開設科目	中国経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	陳建平				

●授業の概要 改革開放２０年、中国が大きな変貌を遂げた。その中国経済の現在の到達点を文献等の精読を通じて把握し、２１世紀の中国経済の展望について考える。

●授業の一般目標 今日の中国経済の成長と社会主義計画経済時代の経済発展との関連性について正しく理解する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 中国経済の現状や課題について深く理解していること。

●授業の計画（全体） 文献資料等を講読する。

●成績評価方法 (総合) 報告とレポートによって評価する。

●教科書・参考書 教科書： テキストは受講者と相談の上決める。

●メッセージ 文献資料の多くが中国語であるため、中国語の理解力が求められる。

開設科目	中国産業政策研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	陳建平				

●授業の概要 改革開放を通じて中国の産業構造は大きく変貌した。本講義では、中国の産業政策について取り上げ、文献等の精読を通じて認識を深める。

●授業の一般目標 中国の産業政策の現状と課題についての理解を深める。

●授業の計画（全体） 文献資料等の講読、それについての討論等を通じて中国の産業政策についての知識と識見を深める。

●成績評価方法 (総合) 小テスト／授業内レポート = 50 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 50 % 出席 = 欠格条件

●教科書・参考書 教科書： 中国語資料を使うことがあるので、中国語の読解能力を有することが前提。

●メッセージ 無断欠席しないこと。

開設科目	多国籍企業と世界経済研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	河野眞治				

●授業の概要 多国籍企業が世界経済にどのような変化をもたらしているか検討する。具体的には次の諸点を問題とする。(1) 企業内国際分業が貿易に与える影響、(2) 直接投資が途上国の経済発展に与える効果、(3) 多国籍化と空洞化、(4) 先進国間投資とグローバル化、地域主義、(5) 多国籍企業間の競争、M & A、戦略的提携。

●授業の一般目標 直接投資に関する最新の情報を学ぶこと。

●授業の計画（全体） World Investment Report 2005、を読む。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 レポートと討論 （以下同じ）
第 2 回
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

開設科目	国際産業研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	河野眞治				

●授業の概要 いくつかの産業を取り上げて、現代における巨大企業間の国際競争の特徴を探り出す。検討するのは、自動車、半導体、電気通信、航空、コンピュータ、鉄鋼、石油などである。問題となるのは、直接投資、M & A、提携、国際的な工場配置、情報化等の諸点である。

●授業の一般目標 国際間の寡占企業間の競争の実態について学ぶ。

●授業の計画（全体） 学生が自分で産業を選び、国際競争の実態について報告する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回　項目 レポートと討論 （以下同じ）
第 2 回
第 3 回
第 4 回
第 5 回
第 6 回
第 7 回
第 8 回
第 9 回
第 10 回
第 11 回
第 12 回
第 13 回
第 14 回
第 15 回

開設科目	韓国経済論研究A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	横田伸子				

●授業の概要 1997 年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をど のように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れ る。／検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー

●授業の一般目標 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。 思考・判断の観点： テキストである社会科学専門書の内容を批判的に読解できる。 技能・表現の観点： 客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。

●授業の計画（全体） 韓国の構造改革に関する学術書や論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。その報告 を中心に討論する。

●成績評価方法 (総合) 1．報告 40 %、レポート 40 %、討論 20 %。4 回以上欠席した場合、単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書： テキストは適宜指示する。

●連絡先・オフィスアワー オフィスアワーはとくに設けません。E-mail ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5559

開設科目	韓国経済論研究Ｂ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	横田伸子				

●授業の概要 1997 年の経済危機以降の韓国の経済構造改革について分析し、それが韓国経済社会の構造をど のように変えたのかを考察する。とくに、韓国社会を分析する際、ジェンダーの視点も取り入れ る。／検索キーワード 韓国経済、経済構造改革、経済危機、ジェンダー

●授業の一般目標 韓国の経済構造改革について理解し、把握する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1．テキストである社会科学専門書の内容を正しく理解することができる。 思考・判断の観点： 1．テキストである社会科学専門書の内容を批判的に読解できる。 技能・表現の観点： 1．客観的立場から、自己の議論を論理的に展開できる。

●授業の計画（全体） 韓国の構造改革に関する学術書や学術論文を各自に割り当て、その内容を整理し報告する。報告 を中心に討論を行う。

●成績評価方法 (総合) 1．報告 40 %、レポート 40 %、討論 20 %。4 回以上欠席した場合、単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書： テキストは適宜指示する。

●連絡先・オフィスアワー オフィスアワーはとくに設けません。E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話：083-933-5559

開設科目	コミュニケーション英語研究	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	武本ティモシー				

●授業の概要 本授業では英語で日本文化の特徴について議論します。教員は文化心理学・異文化コミュニケーションでの研究をしょうかいしてから、学生にその話題について話し合ってもらいます。 This course will focus upon the discussion of Japanese culture in English. The teacher will present research from the fields of Cultural Psychology and Intercultural Communication. Students will then be encouraged to talk about the differences raised and their own perceptions of Japanese culture. ／検索キーワード 文化, コミュニケーション,Culture, Communication

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 文化心理学・異文化コミュニケーションにおける日本文化についての研究を知ること To learn about some of the research in the fields of Intercultural Communication and Cultural Psychology　態度の観点： 英語で話す恐怖を乗り越え、下手は英語でも自分の意見を言い表す積極的な姿勢 To overcome fears regarding speaking in English, and develop an enthusiasm towards expressing ones own opinions　技能・表現の観点： 日本文化についての意見を英語で表現する技能

●授業の計画（全体） 下記の話題についての研究を紹介し、議論していただきます。 集団主義と個人主義（Collectivism and Individualism) 自己高揚（自分を過大評価する態度）Self Enhancement (The tendency to overestimate ones merits) 時間的展望（時間をどのように認識するか）Time Perspective (How different cultures view time) 空間観（空間をどのように認識するか）Proxylemics and other attitudes governing cultural perceptions of space ジェンダー（男性の役割・女性の役割をどのように考えるか）Gender (How cultures view the roles of males and females)

●成績評価方法 (総合) レポート５０％ 参加（平常点）５０％ 出席（欠格条件）

●メッセージ 英語のレベルは様々でそう問われませんが、間違いを恐れずに英語で話してみることが肝心です。恥ずかしがらないで、積極的に参加してください。Since there are sure to be a variety of levels of English ability, your fluency at the start of the course will not be all that much of an issue. It is however important that you attempt to speak, even in broken English and overcome your fear and embarassment towards doing so.

●連絡先・オフィスアワー tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済 4 階玄関上 山口大学 HP の「ニュース」のメニューの中の「オンライン英語教育」HP　http://www.eigodaigaku.com　でのウェッブカムを見てチャットルームも訪問してください。

開設科目	外国文献研究 A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	吉水 佐知子				